

IPv6

概要・基本設定	4
IPv6 ホストとしての基本設定	4
IPv6 ルーターとしての基本設定	5
その他	7
Telnet クライアント	7
Telnet サーバー	8
Ping	8
Traceroute	9
設定の確認	10
IPv6 インターフェース	12
基本設定	12
トンネルインターフェース	14
IPv6 over IPv4	14
6to4	16
経路制御	19
経路制御 (RIPng)	20
名前解決	21
ホストテーブル	21
IPv6 フィルター	22
基本動作	22
フィルターの構成	22
フィルター処理の流れ	22
設定手順	24
フィルタリング条件の指定	24
アクションの指定	26
マッチしたパケットの記録	26
インターフェースへの適用	28
フィルターの削除	28
設定例	28
その他	30
コマンドリファレンス編	31
機能別コマンド索引	31
ADD IPV6 6TO4	33
ADD IPV6 FILTER	35

ADD IPV6 HOST	39
ADD IPV6 INTERFACE	40
ADD IPV6 ND	42
ADD IPV6 PREFIX	43
ADD IPV6 RIP	45
ADD IPV6 ROUTE	46
ADD IPV6 TUNNEL	48
CREATE IPV6 INTERFACE	49
DELETE IPV6 6TO4	51
DELETE IPV6 FILTER	52
DELETE IPV6 HOST	53
DELETE IPV6 INTERFACE	54
DELETE IPV6 ND	55
DELETE IPV6 PREFIX	56
DELETE IPV6 RIP	57
DELETE IPV6 ROUTE	58
DELETE IPV6 TUNNEL	59
DESTROY IPV6 INTERFACE	60
DISABLE IPV6	61
DISABLE IPV6 ADVERTISE	62
DISABLE IPV6 DEBUG	63
DISABLE IPV6 MTUDISCOVERY	64
DISABLE IPV6 RIP	65
ENABLE IPV6	66
ENABLE IPV6 ADVERTISE	67
ENABLE IPV6 DEBUG	68
ENABLE IPV6 MTUDISCOVERY	70
ENABLE IPV6 RIP	71
RESET IPV6 NDCACHE	72
SET IPV6 FILTER	73
SET IPV6 INTERFACE	75
SET IPV6 MTU	77
SET IPV6 ND	78
SET IPV6 PREFIX	80
SHOW IPV6	81
SHOW IPV6 COUNTER	83
SHOW IPV6 FILTER	86
SHOW IPV6 HOST	88
SHOW IPV6 INTERFACE	89
SHOW IPV6 MULTICAST	92
SHOW IPV6 NDCACHE	93
SHOW IPV6 NDCONFIG	95

SHOW IPV6 RIP	97
SHOW IPV6 ROUTE	99
SHOW IPV6 TUNNEL	101

概要・基本設定

IPv6 (Internet Protocol Version 6) の基本設定について説明します。

🔗 IPv6 パケットのルーティングはソフトウェアによって処理されます。

IPv6 ホストとしての基本設定

本製品はご購入時の状態で、レイヤー 2 スイッチとして機能するよう設定されています。単なるスイッチとして使うだけなら、設置・配線後電源を入れるだけで特に設定は必要ありません。

ただし、その場合でも IPv6 ネットワーク経由で Telnet ログインしたいときは、本製品に IPv6 アドレスを割り当てる必要があります。以下、そのための基本設定について説明します。

1. コンソールターミナルからログインします。
2. IPv6 モジュールを有効にします。

```
ENABLE IPV6 ↵
```

3. VLAN default に IPv6 アドレスを設定します。ご購入時の状態ではすべてのポートが VLAN default に所属しています。

```
ADD IPV6 INT=vlan-default IP=3ffe:b80:3c:10:ded0:d0d0:deda:dada/64 ↵
```

🔗 本製品は IPv6 ルーターとしての使用をメインに想定しているため、グローバルアドレスの自動設定には対応していません。IPv6 ホストとして使用する場合であっても、アドレスを手動で設定してください。なおリンクローカルアドレスは、ADD IPV6 INTERFACE コマンド (40 ページ) か CREATE IPV6 INTERFACE コマンド (49 ページ) をインターフェースに対して初めて実行したときに自動設定されます。

また、リンクローカルアドレスのみでかまわないときは、ADD IPV6 INTERFACE コマンド (40 ページ) の代わりに、CREATE IPV6 INTERFACE コマンド (49 ページ) を使います。本コマンドを実行すると、指定したインターフェースのリンクローカルアドレスが自動設定されます。

```
CREATE IPV6 INT=vlan-default ↵
```

自動設定されたリンクローカルアドレスを確認するには、SHOW IPV6 INTERFACE コマンド (89 ページ) を実行します。

```
SHOW IPV6 INT=vlan-default ↵
```

4. 本製品に直結されていないサブネットと通信したいときは経路の設定が必要です。スタティック経路は ADD IPV6 ROUTE コマンド (46 ページ) で設定します。直結のサブネットしかない場合、および、本製品をリンクローカルアドレスだけで運用する場合、経路設定は不要です。
たとえば、デフォルト経路を設定するには次のようにします。

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=vlan-default NEXTHOP=3ffe:b80:3c:10::1 ↵
```

📎 「::/0」は「0:0:0:0:0:0:0:0/0」の省略形でデフォルト経路を表します。

5. 以上で設定は完了です。次回起動時にも同じ設定が有効になるよう、設定をファイルに保存し、起動スクリプトに指定します。

```
CREATE CONFIG=ip6basic.cfg ↵
SET CONFIG=ip6basic.cfg ↵
```

IPv6 モジュールの全般的な情報は SHOW IPV6 コマンド (81 ページ) で確認します。

インターフェースに割り当てられた IPV6 アドレスの情報は SHOW IPV6 INTERFACE コマンド (89 ページ) で確認します。

経路情報は SHOW IPV6 ROUTE コマンド (99 ページ) で確認します。

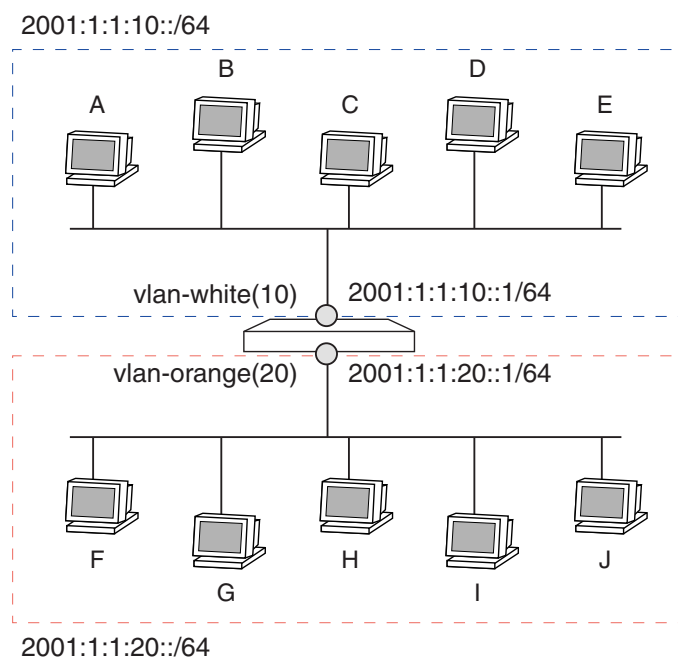
IPv6 ルーターとしての基本設定

IPv6 ルーティング機能を利用するには、少なくとも 2 つの IPv6 インターフェースが必要です。以下、IPv6 ルーターとしての基本設定手順を示します。

📎 IPv6 パケットのルーティング処理はソフトウェアによって行われます。

最初に、ここでは上位組織 (ISP など) から 48 ビット長のプレフィックス 2001:1:1::/48 を割り当てられているものと仮定します。これは、2001:1:1:0::/64 ~ 2001:1:1:ffff::/64 の 65536 個のサブネットを自由に使える広大なアドレス空間です。

ここでは、このアドレス空間から 2 つのサブネット「2001:1:1:10::/64」と「2001:1:1:20::/64」をそれぞれ vlan-white と vlan-orange に割り当て、VLAN 間で IPv6 パケットのルーティングが行われるよう設定します。



1. VLAN の設定を行います。

```
CREATE VLAN=white VID=10 ↵
CREATE VLAN=orange VID=20 ↵
ADD VLAN=white PORT=1-12 ↵
ADD VLAN=orange PORT=13-24 ↵
```

2. IPv6 モジュールを有効にします。

```
ENABLE IPV6 ↵
```

3. インターフェースに IPv6 アドレスを設定します。また、設定するアドレスのプレフィックス部分（ネットワーク番号）を LAN 上に通知するため、「PUBLISH=YES」を付けます。

```
ADD IPV6 INT=vlan-white IP=2001:1:1:10::1/64 PUBLISH=YES ↵
ADD IPV6 INT=vlan-orange IP=2001:1:1:20::1/64 PUBLISH=YES ↵
```

4. ルーター通知（RA）を有効にして、プレフィックスを通知するよう設定します。

```
ENABLE IPV6 ADVERTISE ↵
```

設定は以上です。本製品は、自分自身の存在とプレフィックスを各 VLAN に対して定期的にマルチキャストします（ルーター通知）。IPv6 ホストは、ルーター通知メッセージによってサブネットのプレフィックスを知り、自分自身の IPv6 アドレスを組み立てます。また、デフォルトゲートウェイアドレスを自動設定します。

スタティック経路を設定するには、ADD IPV6 ROUTE コマンド (46 ページ) を使います。たとえば、vlan-white 上に 2001:1:1:ff::/64 への経路がある場合、次のようにして登録します。ここでは、ネクストホップアドレスが 2001:1:1:10:290:99ff:fe42:f2 であると仮定します。

```
ADD IPV6 ROUTE=2001:1:1:ff::/64 INT=vlan-white
NEXTTHOP=2001:1:1:10:290:99ff:fe42:f2 ↵
```

その他

Telnet クライアント

本製品の TELNET コマンド (「運用・管理」の 462 ページ) (Telnet クライアント) は IPv6 に対応しています。

本製品から他の IPv6 ノードに Telnet 接続するには、次のようにします。

```
TELNET 3ffe:b80:3c:10:290:99ff:fe42:f2 ↵
```

```
Manager > telnet 3ffe:b80:3c:10:290:99ff:fe42:f2

Info (1033256): Attempting Telnet connection to 3ffe:b80:3c:10:290:99ff:fe42:f2,
Please wait ....

MadVNB/iqdnjqt (kiji.example.com) (ttyp0)

login: rdhmzj
Password:
```

接続先をリンクローカルアドレスで指定する場合は、どのインターフェース配下のアドレスであるかを示すため、アドレスの末尾にインターフェース名を付ける必要があります。たとえば、vlan-white 配下の fe80::290:99ff:fe42:f2 に Telnet で接続するには、次のようにします。アドレス、パーセント記号、インターフェース名の順に指定してください。

```
Manager > telnet fe80::290:99ff:fe42:f2%vlan-white

Info (1033256): Attempting Telnet connection to fe80::290:99ff:fe42:f2, Please wait ....

MadVNB/iqdnjqt (kiji.example.com) (ttyp0)

login: myname
Password:
```

IPv6 アドレスの代わりにホスト名を使いたいときは、ADD IPV6 HOST コマンド (39 ページ) でホストテーブルにアドレスを登録してから TELNET コマンド (「運用・管理」の 462 ページ) を実行します。

```
ADD IPV6 HOST=kiji IP=3ffe:b80:3c:10:290:99ff:fe42:f2 ↵
TELNET kiji ↵
```

Telnet サーバー

本製品の Telnet サーバーは IPv6 に対応しているため、他のノードから IPv6 対応 Telnet クライアントを使って本製品のコマンドラインにアクセスすることができます。

他の IPv6 対応ノードから本製品に IPv6 を使って Telnet 接続するには、各システム用の IPv6 対応 Telnet クライアントを使います。詳細はシステム付属のマニュアル等をご覧ください。

```
egoh@raboof:~> telnet v6gw
Trying 3ffe:b80:3c:10::1...
Connected to v6gw.
Escape character is '^]'
TELNET session now in ESTABLISHED state

login: manager
Password:
```

本製品にリンクローカルアドレスだけを割り当てた場合、IPv6 で Telnet アクセスできるのは同一サブネット上の IPv6 ノードだけになります。この場合は、本製品のリンクローカルアドレスを指定してください（通常、リンクローカルアドレスの指定時は送出インターフェースの指定も必要です）。本製品のリンクローカルアドレスは、SHOW IPV6 INTERFACE コマンド（89 ページ）で確認できます。

```
egoh@raboof:~> telnet fe80::200:cdff:fe08:170c%ne0
Trying fe80::200:cdff:fe08:170c%ne0...
Connected to fe80::200:cdff:fe08:170c%ne0.
Escape character is '^]'
TELNET session now in ESTABLISHED state

login: manager
Password:
```

Telnet サーバーの待ち受けポート（リスニングポート）を変更するには、SET TELNET コマンド（「運用・管理」の 320 ページ）の LISTENPORT パラメーターを使います。リスニングポートの変更は IPv4、IPv6 の両方に影響します。デフォルトは 23（telnet）です。

```
SET TELNET LISTENPORT=14023 ↵
```

Telnet サーバーを停止するには、DISABLE TELNET SERVER コマンド（「運用・管理」の 223 ページ）を実行します。同コマンドを実行すると、IPv4、IPv6 のどちらでも Telnet アクセスができなくなります。

```
DISABLE TELNET SERVER ↵
```

Ping

本製品の PING コマンド（「IP」の 312 ページ）は、IPv4 に加え、IPv6 にも対応しています。PING コマンド（「IP」の 312 ページ）は、指定した IPv6 ノードに到達できるかどうかを調べるコマンドです。

グローバルまたはサイトローカルアドレス宛てに Ping を打つには次のようにします。

```
PING 3ffe:b80:3c:20::fe ↓
```

```
Manager > ping 3ffe:b80:3c:20::fe

Echo reply 1 from 3ffe:0b80:003c:0020::00fe time delay 1 ms

Echo reply 2 from 3ffe:0b80:003c:0020::00fe time delay 0 ms

Echo reply 3 from 3ffe:0b80:003c:0020::00fe time delay 0 ms

Echo reply 4 from 3ffe:0b80:003c:0020::00fe time delay 0 ms

Echo reply 5 from 3ffe:0b80:003c:0020::00fe time delay 0 ms
```

リンクローカルアドレス宛てに Ping パケットを送信するときは、どのインターフェースから送出するかを示すため、アドレスの末尾にインターフェース名を付ける必要があります。たとえば、vlan-white 側の fe80::290:99ff:fe42:f2 に対して Ping を実行するには、次のようにします。アドレス、パーセント記号、インターフェース名の順に指定してください。

```
PING fe80::290:99ff:fe42:f2%vlan-white ↓
```

IPv6 ホストテーブルに登録している名前を指定することもできます。ホストテーブルへの登録は、ADD IPV6 HOST コマンド（39 ページ）で行います。

```
ADD IPV6 HOST=com254 IP=3ffe:b80:3c:20::fe ↓
PING com254 ↓
```

Traceroute

本製品の TRACE コマンド（「IP」の 517 ページ）(Traceroute) は、指定した IPv4/IPv6 ノードまでの経路（経由するルーター）を調べるコマンドです。

Traceroute を実行するには次のようにします。

```
TRACE 3ffe:b80:3c:40:290:99ff:fe1e:e00a ↓
```

```

Manager > trace 3ffe:b80:3c:40:290:99ff:fe1e:e00a

Trace from 3ffe:0b80:003c:0020::0001 to 3ffe:0b80:003c:0040:0290:99ff:fe1e:e00a,
1-30 hops
 0. 3ffe:0b80:003c:0020::0002          0      0      1 (ms)
 1. 3ffe:0b80:003c:0030::0002          1      1      2 (ms)
 2. 3ffe:0b80:003c:0040:0290:99ff:fe1e:e00a  2      2      3 (ms)
***
Target reached

```

IPv6 ホストテーブルに登録している名前を指定することもできます。ホストテーブルへの登録は、ADD IPV6 HOST コマンド (39 ページ) で行います。

```

ADD IPV6 HOST=com254 IP=3ffe:b80:3c:20::fe ↵
TRACE com254 ↵

```

設定の確認

IPv6 の各種設定内容を確認するには、以下のコマンドを使います。

IPv6 モジュールの情報を確認するには、SHOW IPV6 コマンド (81 ページ) を使います。

```
SHOW IPV6 ↵
```

IPv6 パケットの統計を見るには、SHOW IPV6 COUNTER コマンド (83 ページ) を使います。

```
SHOW IPV6 COUNTER ↵
```

ルーターのインターフェースに設定された IPv6 アドレスを確認するには、SHOW IPV6 INTERFACE コマンド (89 ページ) を使います。

```

SHOW IPV6 INT ↵
SHOW IPV6 INT=vlan-orange ↵
SHOW IPV6 INT=vlan20 ↵

```

Neighbour キャッシュを確認するには、SHOW IPV6 NDCACHE コマンド (93 ページ) を使います。

```
SHOW IPV6 NDCACHE ↵
```

IPv6 ルーティングテーブルの情報を確認するには、SHOW IPV6 ROUTE コマンド (99 ページ) を使います。

SHOW IPV6 ROUTE ↓

IPv6 インターフェース

IPv6 インターフェースの設定方法について説明します。

IPv6 にはアドレス自動設定の仕組みがあるため、ホストのアドレスは自動的に設定できます。自動設定機能が有効なホストは、ルーターから通知されたネットワーク番号（プレフィックス）に、自身の物理アドレス（MAC アドレスなど）から導き出した値を組み合わせ、一意の IPv6 アドレスを生成します。

この仕組み（ステートレスアドレス自動設定）を機能させるには、ルーターに明示的なアドレス設定が必要です。ここでは、本製品の VLAN インターフェースに IPv6 アドレスを設定する方法について解説します。また、ルーター通知（RA）によって、プレフィックス情報を通知するための設定についても説明します。

基本設定

本製品の VLAN インターフェースに IPv6 アドレスを設定するには、ADD IPV6 INTERFACE コマンド（40 ページ）を使います。IPv6 アドレスは、IP アドレスとプレフィックス長の組で指定します（IPv4 における IP アドレスとネットマスクに相当）。vlan-white に IPv6 アドレス「3ffe:b80:3c:10::1/64」を設定するには、次のようにします。

```
ADD IPV6 INT=vlan-white IP=3ffe:b80:3c:10::1/64 ↵
```

各インターフェースに割り当てられた IPv6 アドレスには、推奨有効時間（Preferred Lifetime）と最終有効時間（Valid Lifetime）の 2 つの有効期限（秒）が設定されます。省略時の推奨有効時間は 604800 秒（7 日）、最終有効時間は 2592000 秒（30 日）です。

これらはそれぞれ、ADD IPV6 INTERFACE コマンド（40 ページ）、SET IPV6 INTERFACE コマンド（75 ページ）の PREFERRED、VALID パラメーターで任意の値に設定できます。

```
ADD IPV6 INT=vlan-white IP=3ffe:b80:3c:10::1/64 PREFERRED=100000
VALID=200000 ↵
```

また、インターフェースアドレスのプレフィックスをルーター通知（RA）で通知する場合、これらの有効時間は RA の Valid lifetime、Preferred lifetime フィールドにもセットされます。

- 推奨有効時間は、該当アドレスの使用が推奨される期間を示します。この期間中は、新規の通信に該当アドレスを使用することができます。推奨有効時間は、最終有効時間と同じか、それよりも短く設定しなくてはなりません。
- 最終有効時間は、該当アドレスが有効である期間を示します。最終有効時間は、推奨有効時間と同じかそれよりも長く設定しなくてはなりません。最終有効時間が推奨有効時間よりも長い場合、推奨有効時間が過ぎ、なおかつ、最終有効時間に達していない時点のアドレスを、非推奨アドレスと呼びます。このアドレスはまだ有効ですが、使用は推奨されません。以前より継続中の通信でこのアドレスを使用し続けることはかまいませんが、新規の通信でこの状態のアドレスを使用することはできません。最終有効時間が過ぎると、該当アドレスは完全に無効となり、使用できなくなります。

なお、インターフェースに設定したアドレスの有効時間は、デフォルトでは減算されません。したがって、

デフォルトの設定では、本製品のインターフェースに設定したアドレスが無効になることはありません。インターフェースに設定したアドレスの有効時間が実時間の進行にしたがって減算されるようにするには、ADD IPV6 INTERFACE コマンド (40 ページ) の DECREMENT パラメーターに YES を指定してください (省略時は NO)。これにより、アドレス設定と同時に有効時間が減算されていき、推奨有効時間を過ぎるとアドレスは非推奨 (deprecated) 状態となり、最終有効時間を過ぎるとアドレスは削除されます。

- この場合、ランタイムメモリーからも、該当する ADD IPV6 INTERFACE コマンド (40 ページ) が削除されます。そのため、アドレスが削除された後で CREATE CONFIG コマンド (「運用・管理」の 151 ページ) を実行しても、該当アドレスの設定は保存されません。また、SHOW CONFIG コマンド (「運用・管理」の 353 ページ) に DYNAMIC オプションを指定しても、該当アドレスの設定は表示されません。

DECREMENT=YES を指定した場合、RA の Valid lifetime と Preferred Lifetime フィールドには、RA 送信時の残り有効時間がセットされます。

配下のネットワークに対して、ルーター通知 (RA) でプレフィックス (ネットワーク番号) を通知する場合は、ADD IPV6 INTERFACE コマンド (40 ページ) か SET IPV6 INTERFACE コマンド (75 ページ) の PUBLISH パラメーターに YES を指定してください。

```
SET IPV6 INT=vlan-white IP=3ffe:b80:3c:10::1/64 PUBLISH=YES ↵
```

ルーター通知 (RA) はデフォルトで無効に設定されています。プレフィックスを通知する場合は、ENABLE IPV6 ADVERTISE コマンド (67 ページ) で有効にしてください。また、前項の説明にあるように、インターフェースアドレスの PUBLISH パラメーターを YES に設定してください。

```
ENABLE IPV6 ADVERTISE ↵
```

特定のインターフェースでのみ RA を有効化したいときは、INTERFACE パラメーターでインターフェースを指定してください。省略時はすべてのインターフェースで RA が有効になります。

```
ENABLE IPV6 ADVERTISE INTERFACE=vlan-white ↵
```

インターフェースに設定したアドレス以外のプレフィックスを通知したい場合は、ADD IPV6 PREFIX コマンド (43 ページ) でルーター通知 (RA) に含めるプレフィックスを追加できます。たとえば、vlan-orange から送信する RA にプレフィックス 2001:abcd:abcd:10::/64 を含めるには、次のようにします。

```
ADD IPV6 PREFIX=2001:abcd:abcd:10::/64 INT=vlan-orange ↵
```

プレフィックスの推奨有効時間 (Preferred Lifetime)、最終有効時間 (Valid Lifetime) はそれぞれ PREFERRED、VALID パラメーターで指定できます。単位は秒です。INFINITE を指定した場合は無期限となります。省略時の推奨有効時間は 604800 秒 (7 日)、最終有効時間は 2592000 秒 (30 日) です。

```
ADD IPV6 PREFIX=2001:abcd:abcd:10::/64 INT=vlan-orange PREFERRED=100000
VALID=200000 ↵
```

ルーター通知 (RA) で通知するプレフィックスの一覧は、SHOW IPV6 NDCONFIG コマンド (95 ページ) で確認できます。「AdvPrefixList」欄をご覧ください。

```
SHOW IPV6 NDCONFIG ↵
```

インターフェースをリンクローカルアドレスだけで運用するには、ADD IPV6 INTERFACE コマンド (40 ページ) ではなく、CREATE IPV6 INTERFACE コマンド (49 ページ) を使います。本コマンドを実行すると、リンクローカルアドレスが自動的に設定されます。リンクローカルアドレスは、同一データリンク上 (同一 VLAN 上) でのみ使用可能なアドレスです。ルーター越えの通信には使用できません。

```
CREATE IPV6 INT=vlan-orange ↵
```

自動設定したリンクローカルアドレスを確認するには、SHOW IPV6 INTERFACE コマンド (89 ページ) を使います。

```
SHOW IPV6 INT=vlan-orange ↵
```

IPv6 インターフェースの情報は SHOW IPV6 INTERFACE コマンド (89 ページ) で確認できます。

```
SHOW IPV6 INT ↵
```

```
SHOW IPV6 INT=vlan-white ↵
```

トンネルインターフェース

本製品では、既存の IPv4 ネットワーク経由で IPv6 ネットワークを接続するための方法として、IPv6 over IPv4 トンネリング (固定設定トンネル) と 6to4 トンネリング (自動設定トンネル) をサポートしています。トンネリングに使う仮想インターフェースをトンネルインターフェースと呼び、インターフェース名として「VIRTn」を使います (n は通し番号)。

- IPv6 over IPv4 および 6to4 トンネルインターフェースでは、IPv6 上の TCP Syn パケットを監視し、TCP ヘッダー内の MSS オプションの値が 1220 を超える場合、同オプションの値を 1220 に書き換える MSS クランプ機能がつねに有効です (無効にはできません。また、MSS の値は 1220 固定です)。MSS クランプ機能では、IPv6 パケットが IPv4 パケットにカプセル化される時点で、IPv6 パケット内 TCP Syn パケットの MSS オプション値を書き換えます。IPv6 パケットのカプセル化を解除するときは、書き換えを行いません。

IPv6 over IPv4

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースを作成するには、ADD IPV6 TUNNEL コマンド (48 ページ) を使います。このコマンドは2つのパラメーター LOCAL と TARGET をとります。これらは、トンネル両端の IPv4 アドレスです。IPv6 パケットを自分側から相手側に送信する場合、始点アドレスに LOCAL、終点アドレスに TARGET を設定した IPv4 パケットのデータ部分に IPv6 パケットをカプセル化して送信します。このとき、IP のプロトコル番号は IPv6 を示す 41 (10 進数) となります。

IPv6 over IPv4 トンネルの設定は対向する両方のルーターで必要です。作成したトンネルインターフェースには「VIRTn」の形式のインターフェース名が割り当てられます。「n」は0から始まる通し番号です。複数のトンネルを作成したときは0、1、2の順番に割り当てられます。これ以降は、他の IPv6 インターフェース (vlan1 など) と同じように扱うことができます。

ルーター A

```
ADD IPV6 TUNNEL LOCAL=1.1.1.1 TARGET=2.2.2.1 ↵
```

ルーター B

```
ADD IPV6 TUNNEL LOCAL=2.2.2.1 TARGET=1.1.1.1 ↵
```

- 🔗 ADD IPV6 TUNNEL コマンド (48 ページ) を実行すると、トンネルインターフェースにはリンクローカルアドレスが自動的に設定されます。リンクローカルアドレスを手動設定したいときは、IPADDRESS パラメーターで指定してください。
- 🔗 IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースにグローバルアドレスが必要な場合は、ADD IPV6 INTERFACE コマンド (40 ページ) で追加してください。

IPv6 over IPv4 トンネル作成時にインターフェース名を指定することもできます。これには、ADD IPV6 TUNNEL コマンド (48 ページ) の INTERFACE パラメーターを使います。「VIRTn」の形式で未割り当てのインターフェース名を指定してください。n は 0~255 の範囲です。

```
ADD IPV6 TUNNEL LOCAL=1.1.1.1 TARGET=2.2.2.1 INTERFACE=virt2 ↵
```

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースの方向に経路を向けるには、ADD IPV6 ROUTE コマンド (46 ページ) を使って次のように指定します。NEXTHOP は意味を持たないので「::」を指定します。

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 NEXT=:: ↵
```

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースで RIPng を運用するには、次のようにします。

```
ENABLE IPV6 RIP ↵
```

```
ADD IPV6 RIP INT=virt0 ↵
```

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースを削除するには DELETE IPV6 TUNNEL コマンド (59 ページ) を使います。

ジ) を使います。TUNNEL にはトンネル作成時に自動割り当てされたリンクローカルアドレス (SHOW IPV6 INTERFACE コマンド (89 ページ) か SHOW IPV6 TUNNEL コマンド (101 ページ) で確認できます) を、INTERFACE にはインターフェース名を指定します。

```
DELETE IPV6 TUNNEL=fe80::0101:0101:0202:0201 INTERFACE=virt0 ↓
```

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースの情報は SHOW IPV6 TUNNEL コマンド (101 ページ) で確認できます。

```
SHOW IPV6 TUNNEL ↓
```

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースの情報は SHOW IPV6 INTERFACE コマンド (89 ページ) でも確認できます。

```
SHOW IPV6 INT ↓
SHOW IPV6 INT=virt0 ↓
```

6to4

6to4 (RFC3056) は、特殊な IPv6 プレフィックス (2002::/16) を利用することにより、明示的にトンネルを設定することなく、IPv4 ネットワーク経由で IPv6 の通信を可能にする技術です。

6to4 トンネルインターフェースを作成するには、ADD IPV6 6TO4 コマンド (33 ページ) を使います。唯一のパラメーター IP には、自身の IPv4 アドレス (トンネリング時の始点 IPv4 アドレス) を指定します。たとえば、IPv4 アドレス 192.0.2.1 経由で 6to4 トンネリングを行う場合は次のようにします。

```
ADD IPV6 6TO4 IP=192.0.2.1 ↓
```

このコマンドを実行すると、トンネルインターフェース「VIRTn」が作成され、次の形式の IPv6 アドレスおよびプレフィックスが自動的に割り当てられます。「n」は 0 から始まる通し番号です。複数のトンネルを作成したときは 0、1、2 の順番に割り当てられます。

```
2002:AABB:CCDD::AABB:CCDD/48
```

- 2002::/48 は、6to4 用プレフィックスとして定められており固定です。
- AABB:CCDD の部分は、ADD IPV6 6TO4 コマンド (33 ページ) で指定した自身の IPv4 アドレスを 16 進表記したものです。さきほどの例では c000:0201 (0 を省略すると c000:2021) となります。

```

192    0xc0
0      0x00
2      0x02
0      0x00

```

🔗 6to4 トンネルインターフェースにリンクローカルアドレスは割り当てられません。

6to4 を利用するには、他の 6to4 サイト「2002::/16」への経路を明示的に設定する必要があります。また、6to4 リレールーター経由で一般の IPv6 サイトと通信するためには、IPv6 のデフォルト経路を 6to4 リレールーターに向ける必要もあります。

- 他の 6to4 サイトへの経路を設定するときは、ADD IPV6 ROUTE コマンド(46 ページ)の INTERFACE パラメーターに 6to4 トンネルインターフェースを指定し、NEXTHOP パラメーターには「::」を指定するかパラメーター自体を省略します (::以外の有効な IPv6 アドレスを指定してはなりません)。
- 一般の IPv6 サイトへのデフォルト経路を 6to4 リレールーターに向けるには、ADD IPV6 ROUTE コマンド(46 ページ)の INTERFACE パラメーターに 6to4 トンネルインターフェースを指定し、NEXTHOP パラメーターには 6to4 リレールーターの 6to4 用 IPv6 アドレスを指定する必要があります。

🔗 6to4 リレールーターの 6to4 用 IPv6 アドレスは、6to4 を運営している組織の Web サイトなどから入手してください。

次に、6to4 トンネルインターフェース上に、他の 6to4 サイトへの経路と一般の IPv6 サイトへのデフォルト経路を設定する例を示します。ここでは、6to4 インターフェース名が virt0、6to4 リレールーターの IPv6 アドレスを 2002:ac10:a01::1 と仮定しています。

```

ADD IPV6 ROUTE=2002::/16 INT=virt0 (他の 6to4 サイトへの経路) ↵
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 NEXT=2002:ac10:a01::1 (一般の IPv6 サイトへの経路)
↵

```

6to4 トンネルインターフェースを削除するには DELETE IPV6 6TO4 コマンド(51 ページ)を使います。

```
DELETE IPV6 6TO4 IP=192.0.2.1 ↵
```

6to4 トンネルインターフェースの情報は SHOW IPV6 TUNNEL コマンド(101 ページ)で確認できます。

```
SHOW IPV6 TUNNEL ↵
```

6to4 トンネルインターフェースの情報は SHOW IPV6 INTERFACE コマンド(89 ページ)でも確認できます。

```
SHOW IPV6 INT ↵
```

```
SHOW IPV6 INT=virt0 ↵
```

経路制御

IPv6 におけるスタティックな経路制御について解説します。

スタティック経路を登録するには、ADD IPV6 ROUTE コマンド (46 ページ) を使います。vlan-white 側にネットワーク 3ffe:b80:3c:11::/64 への経路がある場合、次のように指定します。ここでは、ネクストホップアドレスが 3ffe:b80:3c:10:200:f4ff:fe12:3456 であると仮定しています。

```
ADD IPV6 ROUTE=3ffe:b80:3c:11::/64 INT=vlan-white
NEXT=3ffe:b80:3c:10:200:f4ff:fe12:3456 ↓
```

デフォルト経路は「0:0:0:0:0:0:0:0/0」、省略して「::/0」で表します。

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=vlan-grey NEXT=3ffe:b80:3c:30::1 ↓
```

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェース (VIRT) の方向に経路を設定するときは、NEXTHOP に「::」を指定します。あるいは、NEXTHOP パラメーターそのものを省略することもできます。

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 NEXT=:: ↓
```

または

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 ↓
```

6to4 トンネルインターフェース (VIRT) の方向に経路を設定するときは、NEXTHOP にリレールーターの 6to4 用 IPv6 アドレスを指定します。

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 NEXTHOP=2002:c864:0a01::1 ↓
```

スタティック経路を削除するには DELETE IPV6 ROUTE コマンド (58 ページ) を使います。

```
DELETE IPV6 ROUTE=3ffe:b80:3c:11::/64 INT=vlan-white
NEXT=3ffe:b80:3c:10:200:f4ff:fe12:3456 ↓
DELETE IPV6 ROUTE=::/0 INT=vlan-grey NEXT=3ffe:b80:3c:30::1 ↓
DELETE IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 NEXT=:: ↓
```

IPv6 の経路表を確認するには SHOW IPV6 ROUTE コマンド (99 ページ) を実行します。

```
SHOW IPV6 ROUTE ↓
```

経路制御 (RIPng)

IPv6 では、ダイナミックルーティングプロトコルとして RIPng (RIPv6) を使用できます。

RIPng はデフォルトで無効になっています。RIPng を有効化・無効化するには、ENABLE IPV6 RIP コマンド (71 ページ)、DISABLE IPV6 RIP コマンド (65 ページ) を使います。

```
ENABLE IPV6 RIP ↓  
DISABLE IPV6 RIP ↓
```

RIPng パケットを送受信するインターフェースを追加するには、ADD IPV6 RIP コマンド (45 ページ) を使います。

```
ADD IPV6 RIP INT=vlan-white ↓
```

特定のインターフェースで RIPng パケットの送受信を停止するには、DELETE IPV6 RIP コマンド (57 ページ) を使います。

```
DELETE IPV6 RIP INT=vlan-white ↓
```

IPv6 の経路表を確認するには SHOW IPV6 ROUTE コマンド (99 ページ) を実行します。

```
SHOW IPV6 ROUTE ↓
```

RIPng の有効・無効は SHOW IPV6 コマンド (81 ページ) で確認できます。

```
SHOW IPV6 ↓
```

RIPng 関連の情報は SHOW IPV6 RIP コマンド (97 ページ) で確認できます。

```
SHOW IPV6 RIP ↓  
SHOW IPV6 RIP COUNTER ↓  
SHOW IPV6 RIP TIMER ↓
```

名前解決

IPv6 における名前解決（ホスト名から IPv6 アドレスを検索すること）について解説します。本製品では、IPv6 の名前解決にホストテーブルを使用することができます。

ホストテーブル

ホストテーブルは、ホスト名と IPv6 アドレスの対応付けをスタティックに登録したものです。ホストテーブルは本製品がローカルに保持し、TELNET コマンド（「運用・管理」の 462 ページ）、TRACE コマンド（「IP」の 517 ページ）、PING コマンド（「IP」の 312 ページ）で使用できます。

ホストテーブルにホスト名を登録するには ADD IPV6 HOST コマンド（39 ページ）を使います。次の例では、IPv6 アドレス「3ffe:b80:3c:30:290:99ff:fe1b:600a」に「bulbul」という名前を付けています。

```
ADD IPV6 HOST=bulbul IPADDRESS=3ffe:b80:3c:30:290:99ff:fe1b:600a ↵
```

リンクローカルアドレスを登録するときは、該当ホストがどのインターフェース配下にあるかも指定する必要があります。インターフェースは INTERFACE パラメーターで指定します。次の例では、vlan10 に接続されているホストのリンクローカルアドレス「fe80::290:99ff:fe1e:e00a」を「starlingll」という名前でホストテーブルに登録しています。

```
ADD IPV6 HOST=starlingll IP=fe80::290:99ff:fe1e:e00a INTERFACE=vlan10 ↵
```

ホストテーブルからエントリーを削除するには DELETE IPV6 HOST コマンド（53 ページ）を使います。

```
DELETE IPV6 HOST=bulbul ↵
```

ホストテーブルの内容を確認するには SHOW IPV6 HOST コマンド（88 ページ）を使います。

IPv4 のホストテーブルと IPv6 のホストテーブルに同じ名前が登録されている場合、使用するコマンドによって IPv4 と IPv6 のどちらのアドレスを使うかが異なります。

- PING コマンド（「IP」の 312 ページ）: IPv6 アドレスを使います。
- TELNET コマンド（「運用・管理」の 462 ページ）: IPv4 アドレスを使います。
- TRACE コマンド（「IP」の 517 ページ）: IPv6 アドレスを使います。

IPv6 フィルター

IPv6 トラフィックフィルター（以下、IPv6 フィルター）は、受信した IPv6 パケットのヘッダー情報に基づいて、パケットを破棄または許可する機能です。

🔗 IPv6 パケットのルーティングおよびフィルタリングはソフトウェアによって処理されます。

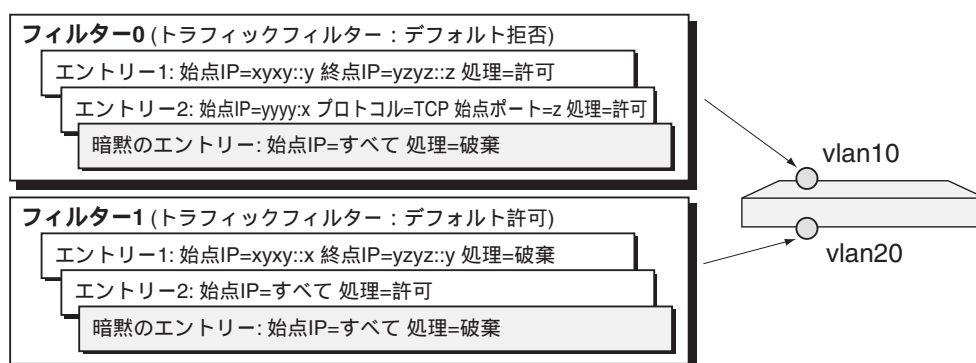
基本動作

IPv6 フィルターの基本動作について説明します。

フィルターの構成

IPv6 フィルターは、複数のフィルターエントリで構成されるリストです。各フィルターはフィルター番号（0～99）で、フィルター内の各エントリはエントリ番号（1～）で識別します。

個々のフィルターエントリでは、パケットをふるいわけするための条件と、マッチ時のアクション（許可または破棄）を指定します。



フィルターは 100 個まで作成できます（フィルター番号 0～99）。また、各フィルターに追加できるエントリ数（エントリ番号 1～4294967294）は空きメモリー容量により変化します。

作成したフィルターは、IPv6 インターフェースに適用して初めて効果を発揮します。フィルターの条件チェック（ふるいわけ）は、受信インターフェースで行われます。

IPv6 インターフェースには、フィルターを 1 つだけ適用できます。同じフィルターを複数のインターフェースに割り当ててもかまいません。

フィルター処理の流れ

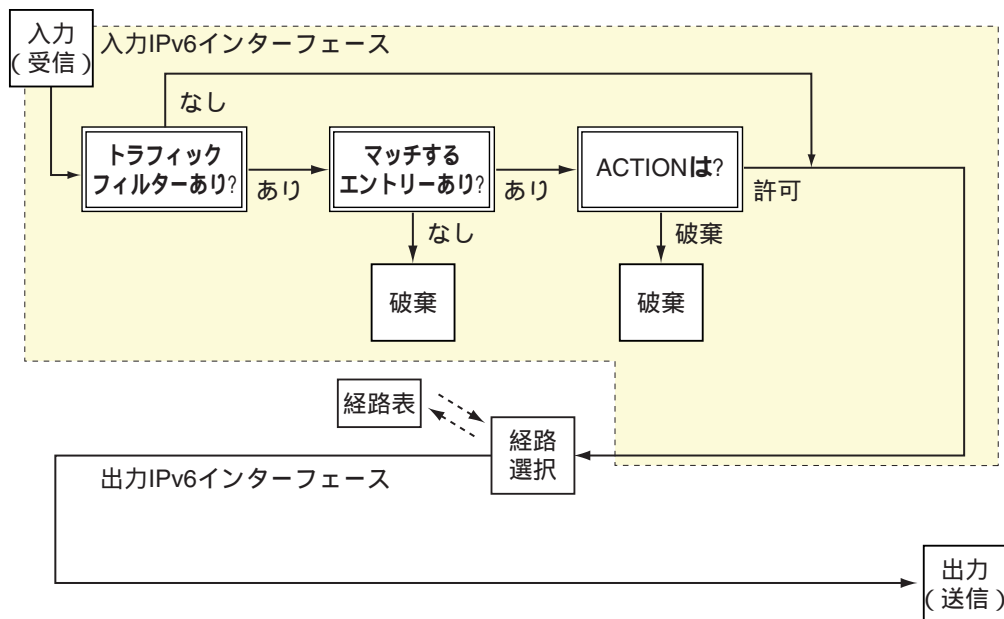
概要

IPv6 フィルターの処理内容は、次の 2 段階に大きく分けられます。

1. 受信（入力）IPv6 インターフェースにおいて、ヘッダー情報（IPv6 アドレス、ポート番号など）に基づきパケットをふるいわけ（フィルタリング）
2. 選別されたパケットに対して指定された処理（許可または破棄）を実行する

詳細

IPv6 フィルターの詳細な処理順序について説明します。



1. IPv6 パケットを受信すると、受信インターフェースにトラフィックフィルターが適用されているかどうかを調べます。
2. 受信インターフェースにトラフィックフィルターが適用されている場合、フィルター内の各エントリーをエントリー番号の若い順にチェックし、受信パケットのヘッダー情報と一致するものがあるかどうかを調べていきます。
受信インターフェースにトラフィックフィルターが適用されていない場合は、受信インターフェースにおける IPv6 フィルター処理を完了し、通常のパケット処理（転送先決定など）に移ります。
 - (a) マッチするエントリーが見つかった場合は、該当エントリーの ACTION パラメーターで指定されている処理（アクション）を実行します。トラフィックフィルターでは、最初にマッチしたエントリーが適用されます。
 - EXCLUDE（破棄）の場合はパケットを破棄し、該当パケットの処理を完了します。
 - INCLUDE（許可）の場合は受信インターフェースにおける IPv6 フィルター処理を完了し、通常のパケット処理（転送先決定など）に移ります。
 - (b) すべてのエントリーをチェックしてもマッチするエントリーが見つからなかった場合は、パケットを破棄して該当パケットの処理を完了します。このように、トラフィックフィルターの末尾には「すべてを破棄する」暗黙のエントリーが存在するので、フィルター作成時には注意が必要です。

3. 通常の packets 処理（自分宛ての packets は上位層に引き渡し、自分宛てでない packets は転送）を行います。

設定手順

IPv6 フィルターの設定は、次の流れで行います。

1. フィルターの作成
packets のフィルタリング条件を指定し、マッチしたときのアクションを指定します。フィルターは ADD IPV6 FILTER コマンド（35 ページ）/SET IPV6 FILTER コマンド（73 ページ）で作成・編集します。
2. インターフェースへの適用
作成したフィルターを IPv6 インターフェース（受信インターフェース）に適用します。フィルターを作成しただけではフィルタリングが行われないので注意してください。フィルターの適用は ADD IPV6 INTERFACE コマンド（40 ページ）/SET IPV6 INTERFACE コマンド（75 ページ）で行います。
IP インターフェースには、フィルターを 1 つだけ適用できます。1 つのフィルターを複数のインターフェースに割り当ててもかまいません。

以下、各手順について詳しく解説します。

フィルタリング条件の指定

packets をふるいわけけるためのパラメーターとしては、以下のものがあります。

パラメーター	説明
SOURCE	始点 IPv6 アドレス。アドレスの後にスラッシュに続けてプレフィックス長を指定することもできる。その場合は SLEN は必要ない。必須パラメーター
SLEN	始点プレフィックス長（0～128）。SOURCE で指定したアドレスの先頭何ビットを比較対象とするかを指定する。SOURCE パラメーターにおいて、スラッシュ記法でプレフィックス長を指定した場合は不要。
DESTINATION	終点 IPv6 アドレス。アドレスの後にスラッシュに続けてプレフィックス長を指定することもできる。その場合は DLEN は必要ない。
DLEN	終点プレフィックス長（0～128）。DESTINATION で指定したアドレスの先頭何ビットを比較対象とするかを指定する。DESTINATION パラメーターにおいて、スラッシュ記法でプレフィックス長を指定した場合は不要。
PROTOCOL	IPv6 の上位プロトコル
OPTIONS	IPv6 packets に拡張ヘッダーによるオプションが含まれるかどうか。
SIZE	フラグメント再構成後の最大データグラムサイズ
SPORT	始点 TCP/UDP ポート
DPORT	終点 TCP/UDP ポート
ICMP TYPE	ICMPv6 メッセージタイプ

ICMP CODE	ICMPv6 サブコード
SESSION	TCP セッションの方向。すべて、接続開始 (Syn=1、Ack=0)、接続済み (Ack=1) から選択する。

表 1: IPv6 フィルターの条件パラメーター

以下、条件指定の部分だけの例を挙げます。

SOURCE パラメーター(始点アドレス)は必須です。任意の始点アドレスを対象とするときは、SOURCE=::/0 (0:0:0:0:0:0:0:0/0 の省略形) のように指定します。また、SOURCE に有効なアドレス (::/0 以外) を指定するときは、アドレスの先頭何ビットを比較対象とするかを示すプレフィックス長 (0 ~ 128) を必ず指定してください。プレフィックス長は、スラッシュ記法を使って SOURCE パラメーターで指定する方法と、SPLLEN パラメーターで別個に指定する方法があります。

ホスト 3ffe:b80:3c:10::1 からの IPv6 パケット (スラッシュ記法)

SOURCE=3ffe:b80:3c:10::1/128 ↓

ホスト 3ffe:b80:3c:10::1 からの IPv6 パケット (SPLLEN パラメーターを使用)

SOURCE=3ffe:b80:3c:10::1 SPLLEN=128 ↓

ホスト 3ffe:b80:3c:20::1 宛での IPv6 パケット (スラッシュ記法)

SOURCE=::/0 DESTINATION=3ffe:b80:3c:20::1/128 ↓

ホスト 3ffe:b80:3c:20::1 宛での IPv6 パケット (DPLEN パラメーターを使用)

SOURCE=::/0 DESTINATION=3ffe:b80:3c:20::1 DPLEN=128 ↓

✎ DESTINATION のプレフィックス長を省略したときは、128 ビット (/128) プレフィックス (ホスト) と見なされます。

ネットワーク 3ffe:b80:3c:10::/64 からのパケット (スラッシュ記法)

SOURCE=3ffe:b80:3c:10::/64 ↓

ネットワーク 3ffe:b80:3c:10::/64 からのパケット (SPLLEN パラメーターを使用)

SOURCE=3ffe:b80:3c:10:: SPLLEN=64 ↓

ネットワーク 3ffe:b80:3c:20::/64 宛でのパケット (スラッシュ記法)

SOURCE=::/0 DESTINATION=3ffe:b80:3c:20::/64 ↓

ネットワーク 3ffe:b80:3c:20::/64 宛でのパケット (DPLEN パラメーターを使用)

SOURCE=::/0 DESTINATION=3ffe:b80:3c:20:: DPLEN=64 ↓

先頭 32 ビットが「3ffe:b80」のアドレス宛でのパケット (スラッシュ記法)

SOURCE=::/0 DESTINATION=3ffe:b80::/32 ↓

先頭 32 ビットが「3ffe:b80」のアドレス宛てのパケット (DPLEN パラメーターを使用)

SOURCE=::/0 DESTINATION=3ffe:b80:: DPLEN=32 ↓

すべての IP パケット

SOURCE=:: ↓

すべての TCP パケット

SOURCE=::/0 PROTOCOL=TCP ↓

すべての Ping (ICMPv6 Echo Request) パケット

SOURCE=::/0 PROTOCOL=ICMP ICMPTYPE=ECHORQ ICMPCODE=ANY ↓

Web サーバー 3ffe:b80:3c:10::5 からの接続済み HTTP パケット

SOURCE=3ffe:b80:3c:10::5/128 PROTOCOL=TCP SPORT=80 SESSION=ESTABLISHED ↓

3ffe:b80:3c:100::2 宛ての Ping (ICMPv6 Echo Request) パケット

SOURCE=::/0 DESTINATION=3ffe:b80:3c:100::2/128 PROTOCOL=ICMP
ICMPTYPE=ECHORQ ICMPCODE=ANY ↓

アクションの指定

マッチ時の処理内容 (アクション) は、ACTION パラメーターで指定します。マッチしたパケットを許可するなら INCLUDE を、破棄するなら EXCLUDE を指定します。

トラフィックフィルターのエン트리リストの末尾には、「すべてを破棄」する暗黙のエントリーが存在しています。そのため、「デフォルト拒否」のフィルターを作成するときは、例外的に許可するエントリーだけを記述します。

一方、「デフォルト許可」のフィルターを作成するときは、拒否するトラフィックのルールを列挙した上で、リストの最後に「すべて許可」のエントリーを作成する必要があります。「すべて許可」のエントリーを作成しないと、暗黙の「すべて破棄」エントリーによってすべてのトラフィックが拒否されてしまいます。

以下、条件指定の例と処理内容の例を組み合わせた、完全なコマンド行の例を示します。

ネットワーク 3ffe:b80:3c:20::/64 からのパケットを破棄するトラフィックフィルターを作成する。

ADD IPV6 FILTER=0 SOURCE=3ffe:b80:3c:20::/64 ACTION=EXCLUDE ↓

Telnet トラフィックを許可する。

ADD IPV6 FITLER=0 SOURCE=::/0 PROTOCOL=TCP DPORT=23 ACTION=INCLUDE ↓

マッチしたパケットの記録

トラフィックフィルターでは、マッチしたパケットをログに記録するよう設定することもできます。これには、ADD IPV6 FILTER コマンド (35 ページ) の LOG オプションを使います。LOG パラメーターを指定しなかった場合は、ログには記録されません。

値	ログタイプ/サブタイプ	記録される情報
NONE		記録しない (デフォルト)
4 ~ 1950	「IPFIL/PASS」(INCLUDE 時)、「IPFIL/FAIL」(EXCLUDE 時)	フィルター番号、エントリー番号、IPv6 ヘッダー情報 (IPv6 アドレス、プロトコル)
	「IPFIL/DUMP」	TCP/UDP/ICMP の場合はデータ部分の先頭 4 ~ 1950 バイト。その他プロトコルの場合は IPv6 データの先頭 4 ~ 1950 バイト
DUMP	「IPFIL/PASS」(INCLUDE 時)、「IPFIL/FAIL」(EXCLUDE 時)	フィルター番号、エントリー番号、IPv6 ヘッダー情報 (IPv6 アドレス、プロトコル)
	「IPFIL/DUMP」	TCP/UDP/ICMP の場合はデータ部分の先頭 32 バイト。その他プロトコルの場合は IPv6 データの先頭 32 バイト。「LOG=32」と指定した場合と同じ
HEADER	「IPFIL/PASS」(INCLUDE 時)、「IPFIL/FAIL」(EXCLUDE 時)	フィルター番号、エントリー番号、IPv6 ヘッダー情報 (IPv6 アドレス、プロトコル)

表 2:

フィルター「0」のエントリー「1 (0/1)」により破棄 (Fail)。IPv6 アドレスは始点が 3ffe:b80:3c:10:290:99ff:fe42:f2 で、終点が 3ffe:b80:3c:20::2。プロトコルは ICMP。ICMP タイプ 128 (Echo)。ICMP コード 0。パケットサイズは 548 バイト。

```
08 14:46:33 3 IPV6 IPFIL FAIL 0/1 Fail
                                3ffe:0b80:003c:0010:0290:99ff:fe42:00f2>3ffe:0b8
                                0:003c:0020::0002 ICMP 128/0 548
```

このログは次のフィルターエントリーにマッチしたときのものです。

```
ADD IPV6 FILTER=0 SOURCE=::/0 PROTO=ICMP ICMPTYPE=ECHORQ ICMPCODE=ANY
LOG=HEADER AC=EXCLUDE ↵
```

フィルター「0」のエントリー「2 (0/2)」により拒否 (Fail)。IP アドレスは始点が 3ffe:b80:3c:10:290:99ff:fe42:f2 で、終点が 3ffe:b80:3c:20::1。プロトコルは TCP。始点ポート 49220、終点ポート 23 (Telnet)。TCP セッションの開始 (Syn) セグメント。パケットサイズは 80 バイト。

```
08 14:49:36 3 IPV6 IPFIL FAIL 0/2 Fail
                                3ffe:0b80:003c:0010:0290:99ff:fe42:00f2>3ffe:0b8
```

```
0:003c:0020::0001 TCP 49220>23 Start 80
```

このログは次のフィルターエントリーにマッチしたときのものです。

```
ADD IPV6 FILTER=0 SOURCE=::/0 PROTO=TCP DPORT=TELNET LOG=HEADER
AC=EXCLUDE ↓
```

インターフェースへの適用

作成したフィルターは、対象パケットを受信する IPv6 インターフェースに適用して初めて効果を発揮します。インターフェースの作成と同時にフィルターを適用するには ADD IPV6 INTERFACE コマンド (40 ページ) を、すでに存在するインターフェースにフィルターを割り当てるときは SET IPV6 INTERFACE コマンド (75 ページ) を使います。フィルター番号は FILTER パラメーターで指定します。

IPv6 インターフェースには、トラフィックフィルターを 1 つだけ適用できます。1 つのフィルターを複数のインターフェースに割り当ててもかまいません。

トラフィックフィルター「0」を vlan-white に割り当て。

```
SET IPV6 INT=vlan-white FILTER=0 ↓
```

フィルターの適用をとりやめるには、フィルター番号の代わりにキーワード NONE を指定します。

```
SET IPV6 INT=vlan-white FILTER=NONE ↓
```

フィルターの削除

IPv6 フィルターから特定のエントリーを削除するには、DELETE IPV6 FILTER コマンド (52 ページ) を使います。エントリー番号は可変なので、削除時には必ず SHOW IPV6 FILTER コマンド (86 ページ) で希望するエントリーの番号を調べてから指定してください。

```
DELETE IPV6 FILTER=10 ENTRY=2 ↓
```

🔗 エントリーを削除しても、他のエントリーの番号は変わりません。

フィルター内の全エントリーを削除するには、ALL を指定します。

```
DELETE IPV6 FILTER=10 ENTRY=ALL ↓
```

インターフェースに設定したフィルターの適用を取りやめるには、SET IPV6 INTERFACE コマンド (75 ページ) の FILTER パラメーターに NONE を指定します。

```
SET IPV6 INT=vlan-white FILTER=NONE ↓
```

設定例

トラフィックフィルターは、受信 IPv6 インターフェースにおいて、ヘッダー情報に基づきパケットの破棄・通過を決定するフィルターです。トラフィックフィルターにはフィルター番号 0～99 番を割り当てます。

3ffe:b80:3c:20::fe からのパケットだけを vlan-orange インターフェースで拒否するには次のようにします。その他の IP トラフィックはすべて許可します。いわゆる「デフォルト許可」の設定になります。

```
ADD IPV6 FILTER=0 SOURCE=3ffe:b80:3c:20::fe/128 ACTION=EXCLUDE ↵
ADD IPV6 FILTER=0 SOURCE=::/0 ACTION=INCLUDE ↵
SET IPV6 INT=vlan-orange FILTER=0 ↵
```

「デフォルト許可」の設定では、拒否するパターンだけを記述します（1 行目）。ただし、トラフィックフィルターのエン트리リストの末尾には、「すべて破棄」を意味する暗黙のエン트리が存在しているため、拒否パターンの後に必ず「すべて許可」のエントリを明示的に作成する必要があります（2 行目）。拒否パターンだけを書くとすべてのトラフィックが拒否されてしまいますのでご注意ください。

なお、vlan-orange 側に 3ffe:b80:3c:20::/64 しかネットワークがない場合は、2 行目を次のように書いた方が不正なパケットを遮断できるのでより好ましいかもしれません。

```
ADD IPV6 FILTER=0 SOURCE=3ffe:b80:3c:20::/64 ACTION=INCLUDE ↵
```

3 行目では、作成したフィルター「0」を IPv6 インターフェース vlan-orange に適用しています。フィルターはインターフェースに適用して初めて効果を持ちます。

フィルターにかかったパケットをログに記録するには、LOG パラメーターを使います。LOG パラメーターはエントリごとに設定するものです。つまり、該当エントリにマッチしたパケットがログに記録されます。トラフィックフィルター「0」の先頭エントリ（エントリ番号「0」）にマッチしたパケットをログに記録するには次のようにします。

```
SET IPV6 FILTER=0 ENTRY=1 LOG=HEADER ↵
```

vlan-orange では原則すべてのパケットを遮断し、3ffe:b80:3c:20::abcd から 3ffe:b80:3c:10::5 の Telnet サービスへのパケットだけを通過させるよう設定するには、次のようにします。いわゆる「デフォルト拒否」の設定です。

```
ADD IPV6 FILT=1 SOURCE=3ffe:b80:3c:20::abcd/128
  DEST=3ffe:b80:3c:10::5/128 PROTO=TCP DPORT=TELNET AC=INCLUDE ↵
SET IPV6 INT=vlan-orange FILTER=1 ↵
```

「デフォルト拒否」の設定では、許可するパターンだけを記述します。トラフィックフィルターのエントリリスト末尾には、「すべて破棄」を意味する暗黙のエントリが存在しているため、拒否パターンを明示的に書く必要はありません。明示的に許可しなかったトラフィックは何もしなくても破棄されます。

2 つのインターフェースの片側からのみ TCP の通信を開始できるようにするには、SESSION パラメーターを使います。ここでは、vlan-orange 側（3ffe:b80:3c:20::/64）からのみ TCP セッションを開始できるように設定します。vlan-white 側（3ffe:b80:3c:10::/64）からの TCP パケットは、すでにセッションが開始されている場合（Ack フラグが立っているとき）に限って許可します。

```
ADD IPV6 FILT=0 SO=3ffe:b80:3c:10::/64 PROTO=TCP SESS=ESTAB AC=INCLUDE ↵
SET IPV6 INT=vlan-white FILTER=0 ↵
ADD IPV6 FILT=1 SO=3ffe:b80:3c:20::/64 DES=3ffe:b80:3c:10::/64 PROTO=TCP
    SESS=ANY AC=INCLUDE ↵
SET IPV6 INT=vlan-orange FILTER=1 ↵
```

その他

IPv6 フィルターはパラメーターが多く、コマンドが長くなりがちです。コマンドラインの入力文字数制限により入力できない場合は、コマンドの省略形を使って入力するか、コマンドを複数行に分割するなどして対処してください。詳細は「運用・管理」の「コマンドプロセッサ」をご覧ください。

コマンドパラメーターの詳細についてはコマンドリファレンス編をご覧ください。

IPv6 フィルターの設定状況を確認するには SHOW IPV6 FILTER コマンド（86 ページ）を使います。

```
SHOW IPV6 FILTER ↵
```

どの IPv6 インターフェースにどのフィルターが適用されているかを確認するには SHOW IPV6 INTERFACE コマンド（89 ページ）を使います。

```
SHOW IPV6 INT ↵
```

コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

一般コマンド

DISABLE IPV6	61
DISABLE IPV6 DEBUG	63
DISABLE IPV6 MTUDISCOVERY	64
ENABLE IPV6	66
ENABLE IPV6 DEBUG	68
ENABLE IPV6 MTUDISCOVERY	70
SHOW IPV6	81
SHOW IPV6 COUNTER	83
SHOW IPV6 MULTICAST	92

IPv6 インターフェース

ADD IPV6 6TO4	33
ADD IPV6 INTERFACE	40
ADD IPV6 TUNNEL	48
CREATE IPV6 INTERFACE	49
DELETE IPV6 6TO4	51
DELETE IPV6 INTERFACE	54
DELETE IPV6 TUNNEL	59
DESTROY IPV6 INTERFACE	60
SET IPV6 INTERFACE	75
SET IPV6 MTU	77
SHOW IPV6 INTERFACE	89
SHOW IPV6 TUNNEL	101

経路制御

ADD IPV6 ROUTE	46
DELETE IPV6 ROUTE	58
SHOW IPV6 ROUTE	99

経路制御 (RIPng)

ADD IPV6 RIP	45
DELETE IPV6 RIP	57
DISABLE IPV6 RIP	65
ENABLE IPV6 RIP	71
SHOW IPV6 RIP	97

名前解決

ADD IPV6 HOST	39
-------------------------	----

DELETE IPV6 HOST	53
SHOW IPV6 HOST	88
近隣探索	
ADD IPV6 ND	42
ADD IPV6 PREFIX	43
DELETE IPV6 ND	55
DELETE IPV6 PREFIX	56
DISABLE IPV6 ADVERTISE	62
ENABLE IPV6 ADVERTISE	67
RESET IPV6 NDCACHE	72
SET IPV6 ND	78
SET IPV6 PREFIX	80
SHOW IPV6 NDCACHE	93
SHOW IPV6 NDCONFIG	95
IPv6 フィルター	
ADD IPV6 FILTER	35
DELETE IPV6 FILTER	52
SET IPV6 FILTER	73
SHOW IPV6 FILTER	86

ADD IPV6 6TO4

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ADD IPV6 6TO4 IP=*ipadd*

ipadd: IPv4 アドレス

解説

6to4 トンネルインターフェースを作成する。

トンネルインターフェースにはインターフェース名「VIRTn」(n は 0 ~) が割り当てられ、6to4 専用プレフィックス (2002::/48) と自エンドの IPv4 アドレスに基づき、IPv6 アドレスが自動設定される。

パラメーター

IP 自エンドの IPv4 アドレス

例

IPv4 インターフェース (アドレス 192.168.100.1) 上に 6to4 トンネルインターフェースを作成し、他の 6to4 サイトへの経路と一般の IPv6 サイトへのデフォルト経路を設定する。ここでは、6to4 リレールーターの IPv6 アドレスを 2002:ac10:a01::1 と仮定している。トンネルインターフェースの IPv6 アドレスは 2002:c0a8:6401::c0a8:6401 となる。

```
ADD IPV6 6TO4 IP=192.168.100.1
```

```
ADD IPV6 ROUTE=2002::/16 INT=virt0 (他の 6to4 サイトへの経路)
```

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 NEXT=2002:ac10:a01::1 (一般の IPv6 サイトへの経路)
```

備考・注意事項

6to4 を利用するには、他の 6to4 サイト「2002::/16」への経路を設定する必要がある。また、6to4 リレールーター経由で一般の IPv6 サイトと通信するためには、IPv6 のデフォルト経路を 6to4 リレールーターに向ける必要もある。

他の 6to4 サイトへの経路を設定するときは、ADD IPV6 ROUTE コマンドの INTERFACE パラメーターに 6to4 トンネルインターフェースを指定し、NEXTHOP パラメーターは指定しないこと (::以外の有効な IPv6 アドレスを指定してはならない)。

一般の IPv6 サイトへのデフォルト経路を 6to4 リレールーターに向けるには、ADD IPV6 ROUTE コマンドの INTERFACE パラメーターに 6to4 トンネルインターフェースを指定し、NEXTHOP パラメーターには 6to4 リレールーターの 6to4 用 IPv6 アドレスを指定する必要がある。

なお、6to4 リレールーターの 6to4 用 IPv6 アドレスは、6to4 を運営している組織の Web サイトなどから入手すること。

関連コマンド

ADD IPV6 ROUTE (46 ページ)

DELETE IPV6 6TO4 (51 ページ)

SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)

SHOW IPV6 TUNNEL (101 ページ)

ADD IPV6 FILTER

カテゴリー：IPv6 / IPv6 フィルター

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

```
ADD IPV6 FILTER=filter-id SOURCE=ip6add/plen ACTION={INCLUDE|EXCLUDE}
[SPORT={port-name|port]: [port]|ANY}] [DESTINATION=ip6add/plen]
[DPORT={port-name|port]: [port]|ANY}] [ICMPCODE={icmp-code-name|
icmp-code-id|ANY}] [ICMPTYPE={icmp-type-name|icmp-type-id|ANY}]
[LOG={4..1950|DUMP|HEADER|NONE}] [OPTIONS={YES|NO}] [PROTOCOL={protocol|
ANY|ICMP|OSPF|TCP|UDP}] [SESSION={ANY|ESTABLISHED|START}] [SIZE={size|
ANY}] [ENTRY=entry-id]
```

filter-id: フィルター番号 (0~99)

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (0~128 ビット)

port-name: サービス名

port: TCP/UDP ポート番号 (0~65535)

icmp-code-name: ICMP コード名

icmp-code-id: ICMP コード番号 (0~65535)

icmp-type-name: ICMP メッセージ名

icmp-type-id: ICMP メッセージ番号 (0~65535)

protocol: IPv6 プロトコル番号 (0~65535)

size: データグラム長 (0~65535 バイト)

entry-id: エントリー番号 (1~4294967294)

解説

IPv6 フィルターにフィルタールールを追加する。

IPv6 フィルターは、受信インターフェースにおいてパケットを許可・破棄する機能。

各 IPv6 インターフェースには、フィルターを1つだけ適用できる。同じフィルターを複数のインターフェースに適用することも可能。IPv6 フィルターは、インターフェースに適用して初めて効果を発揮する。インターフェースへの適用は、ADD IP INTERFACE コマンド、SET IP INTERFACE コマンドで行う。

パラメーター

FILTER フィルター番号 (0~99)。100~299 も入力できるが使用できないので注意。

SOURCE 始点 IPv6 アドレス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する。必須パラメーター。

ACTION マッチしたパケットに対する処理。INCLUDE はパケットを通過させる。EXCLUDE はパケットを破棄する。

SPORT 始点 TCP/UDP ポートあるいは定義済みのサービス名。ポート指定時は PROTOCOL に TCP か UDP を指定する必要がある。low:high の形式で low ~ high の範囲指定も可能。「low:」は low ~ 65535 の意味、「:high」は 0 ~ high の意味になる。デフォルトは ANY

DESTINATION 終点 IPv6 アドレス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する。省略時はすべての

終点アドレスにマッチする

DPORT 終点 TCP/UDP ポートあるいは定義済みのサービス名。ポート指定時は PROTOCOL に TCP か UDP を指定する必要がある。low:high の形式で low ~ high の範囲指定も可能。「low:」は low ~ 65535 の意味、「:high」は 0 ~ high の意味になる。デフォルトは ANY

ICMPCODE ICMPv6 コード番号または定義済みのコード名。ANY はすべてのコードを示す。PROTOCOL=ICMP の場合のみ有効。ICMPTYPE を指定した場合は必須。

ICMPTYPE ICMPv6 メッセージ番号または定義済みのメッセージ名。PROTOCOL=ICMP の場合のみ有効。ICMPCODE も指定すること。

LOG フィルタールールにマッチしたパケットの情報をログに記録するかどうか。記録する場合はどの情報を記録するかも指定する。デフォルトの NONE は、ログに記録しないことを意味する。4 ~ 1950 の数値を指定した場合は、フィルター番号、ルール番号、IP ヘッダー情報 (IP アドレス、プロトコル、ポート番号、サイズ) が「IPFIL/PASS」(INCLUDE アクションの場合) または「IPFIL/FAIL」(EXCLUDE アクションの場合) タイプのメッセージとして記録される。これに加え、「IPFIL/DUMP」タイプのメッセージとして、TCP、UDP、ICMP の場合、データ部分の先頭 4 ~ 1600 バイトが、その他プロトコルの場合は IP データの先頭 4 ~ 1600 バイトが記録される。DUMP は LOG=40 と同じ動作となる。HEADER を指定した場合は、フィルター番号、ルール番号、IP ヘッダー情報のみが記録される。

OPTIONS オプションヘッダー (Hop-by-Hop Options Header または Destination Options Header) が含まれているかどうか。YES を指定した場合は、オプションヘッダーを含むパケットだけにマッチする。デフォルトは NO。

PROTOCOL IPv6 プロトコル番号 (IPv4 と同じ) または定義済みのプロトコル名を指定する。DPORT、SPORT を指定するときは、TCP、UDP、ANY のいずれかを指定する必要がある。また、ICMPCODE、ICMPTYPE 指定時は、ICMP を指定する。

SESSION TCP のセッション制御情報。ANY はすべての TCP パケット、START は接続開始パケット (SYN=1、ACK=0)、ESTABLISHED は接続済みパケット (ACK=1) を意味する。

SIZE データグラムサイズ。payload length <= size のときにマッチする。デフォルトは ANY。

ENTRY エントリー番号。省略時は現在最後尾のエントリーの後に追加される (最後尾のエントリー番号を「n」とすると、新規エントリーは「n+1」になる)。「n+1」より大きなエントリー番号を指定した場合は、指定した番号で追加される。既存エントリーと同じ番号を指定した場合は、既存エントリーの位置に新規エントリーが挿入され、既存エントリー以降は番号が 1 つずつ後ろにずれる。

サービス名	該当サービス/アプリケーション (ポート/プロトコル)
BOOTPC	BOOTP クライアント (68/udp)
BOOTPS	BOOTP サーバー (67/udp)
DOMAIN	DNS サーバー (53/tcp、53/udp)
FINGER	Finger (79/tcp)
FTP	FTP コントロールセッション (21/tcp)
FTPDATA	FTP データセッション (20/tcp)
GOPHER	Gopher (70/tcp)
HOSTNAME	NIC Host Name Server (101/tcp、101/udp)
IPX	IPX (213/tcp、213/udp)

KERBEROS	Kerberos (88/udp)
LOGIN	Login (49/udp)
MSGICP	MSG ICP (29/tcp、 29/udp)
NAMESERVER	Host Name Server (42/udp)
NEWS	NewS (144/tcp)
NNTP	NNTP サーバー (119/tcp)
NTP	NTP サーバー (123/tcp)
RTELNET	Remote Telnet (107/tcp、 107/udp)
SFTP	Simple FTP (115/tcp、 115/udp)
SMTP	SMTP サーバー (25/tcp)
SNMP	SNMP (161/udp)
SNMPTRAP	SNMP トラップ (162/udp)
SYSTAT	Active Users (11/tcp)
TELNET	Telnet (23/tcp)
TFTP	TFTP (69/udp)
TIME	Time (37/tcp、 37/udp)
UUCP	uucpd (540/tcp)
UUCPRLOGIN	uucp-rlogin (541/tcp、 541/udp)
XNSTIME	XNS Time Protocol (52/tcp、 52/udp)

表 3: 定義済みのサービス名一覧

メッセージタイプ名	タイプ番号	サブコード	説明
DESTUNREACH	1	あり	宛先到達不可能 (Destination Unreachable)
PKTTOOBIG	2	あり	パケットサイズ過大 (Packet Too Big)
TIMEEXCEEDED	3	あり	時間超過 (Time Exceeded)
PARAMPROB	4	あり	パラメーター異常 (Parameter Problem)
ECHORQ	128	なし	エコー要求 (Echo Request)
ECHORP	129	なし	エコー応答 (Echo Reply)
MLQUERY	130	なし	マルチキャストリスナークエリー (Multicast Listener Query)
MLREP	131	なし	マルチキャストリスナーレポート (Multicast Listener Report)
MLDONE	132	なし	マルチキャストリスナー Done (Multicast Listener Done)
RTSOLICIT	133	なし	ルーター要請 (Router Solicitation)
RTADVERT	134	なし	ルーター通知 (Router Advertisement)
NBR SOLICIT	135	なし	近隣要請 (Neighbour Solicitation)
NBRADVERT	136	なし	近隣通知 (Neighbour Advertisement)
REDIRECT	137	なし	リダイレクト (Redirect)

RTRENUMBER	138	なし	ルーターリナンバー (Router Renumbering)
ANY			すべて

表 4: 定義済みの ICMPv6 メッセージタイプ名一覧

コード名	コード番号	説明
ANY		すべて
DESTUNREACH (Type=1)		
NOROUTETODEST	0	宛先への経路が存在しない (No Route To Destination)
COMMSPROHIBITED	1	通信拒否 (Communication Prohibited)
SCOPEMISMATCH	2	スコープ不一致 (Scope Mismatch)
ADDRUNREACHABLE	3	アドレス到達不能 (Address Unreachable)
PORTUNREACHABLE	4	ポート到達不能 (Port Unreachable)
TIMEEXCEEDED (Type=3)		
HOPLIMITEXCD	0	ホップ数超過 (Hoplimit Exceeded)
REASMBTIMEEXC	1	再構成時間超過 (Reassembly Time Exceeded)
PARAMPROB (Type=4)		
ERRONEOUSHEADER	0	ヘッダーエラー (Erroneous Header Field)
URCNXTHHEADER	1	次ヘッダーエラー (Unrecognized Next Header)
URCOPTION	2	オプションエラー (Unrecognized Option)

表 5: 定義済みの ICMPv6 コード名一覧

例

VLAN orange 側 (プレフィックス 3ffe:b80:3c:10::/64) から外部への Telnet を禁止する。

```
ADD IPV6 FILTER=0 SO=3ffe:b80:3c:10::/64 PROTO=TCP DPORT=TELNET
AC=EXCLUDE
ADD IPV6 FILTER=0 SO=::/0 AC=INCLUDE
SET IPV6 INT=vlan-orange FILTER=0
```

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE (40 ページ)
DELETE IPV6 FILTER (52 ページ)
SET IPV6 FILTER (73 ページ)
SET IPV6 INTERFACE (75 ページ)
SHOW IPV6 FILTER (86 ページ)

ADD IPV6 HOST

カテゴリー：IPv6 / 名前解決

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ADD IPV6 HOST=hostname IPADDRESS=ip6add [INTERFACE=vlan-if]

hostname: ホスト名

ip6add: IPv6 アドレス

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

IPv6 ホストテーブルにエントリーを追加する。

登録したホスト名は PING コマンド、TELNET コマンド、TRACE コマンドで使用できる。

パラメーター

HOST ホスト名

IPADDRESS IPv6 アドレス

INTERFACE IPv6 インターフェース。IPADDRESS にリンクローカルアドレスを指定した場合の必須パラメーター。

例

IPv6 アドレス「3ffe:b80:3c:10:290:99ff:fe42:f2」を「kijitora」という名前でホストテーブルに登録する

```
ADD IPV6 HOST=kijitora IPADDRESS=3ffe:b80:3c:10:290:99ff:fe42:f2
```

vlan10 に接続されているホストのリンクローカルアドレス「fe80::290:99ff:fe1e:e00a」を「starlingll」という名前で登録する。

```
ADD IPV6 HOST=starlingll IP=fe80::290:99ff:fe1e:e00a INTERFACE=vlan10
```

関連コマンド

DELETE IPV6 HOST (53 ページ)

PING (「IP」の 312 ページ)

SHOW IPV6 HOST (88 ページ)

ADD IPV6 INTERFACE

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

```
ADD IPV6 INTERFACE=vlan-if IPADDRESS=ip6add/plen [PUBLISH={YES|NO}]
[TYPE={ANYCAST|UNICAST}] [PREFERRED={seconds|INFINITE}] [VALID={seconds|
INFINITE}] [DECREMENT={YES|NO}] [FILTER=0..99]
```

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (1~128 ビット)

seconds: 時間 (1~4294967295 秒)

解説

インターフェースに IPv6 アドレスを追加する。該当インターフェースにリンクローカルアドレスが設定されていない場合は、リンクローカルアドレスも自動設定する。

パラメーター

INTERFACE VLAN インターフェース

IPADDRESS IPv6 アドレス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する (例: 3ffe:1234::1/64)

PUBLISH IPADDRESS で指定したアドレスのプレフィックスをルーター通知 (RA) パケットに含めるかどうか。デフォルトは NO

TYPE 追加するアドレスの種類。エニーキャストアドレスのときは ANYCAST を指定する。省略時は UNICAST (ユニキャスト)

PREFERRED IPADDRESS で指定した IPv6 アドレスの推奨有効時間 (秒)。VALID パラメーターの値と同じか、それよりも小さい値でなくてはならない。省略時は 604800 秒 (7 日)

VALID IPADDRESS で指定した IPv6 アドレスの最終有効時間 (秒)。有限な値を指定した場合で、なおかつ、DECREMENT パラメーターに YES を指定した場合、最終有効時間を過ぎるとこのアドレスは消去される (ランタイムメモリーからも該当する設定コマンドが削除される)。少なくとも PREFERRED パラメーターの値と同じか、それ以上に設定しなくてはならない。省略時は 2592000 秒 (30 日)

DECREMENT IPADDRESS で指定した IPv6 アドレスの推奨有効時間と最終有効時間を実時間の経過にともない減算するかどうか。YES を指定した場合、最終有効時間が 0 になると該当するアドレスは削除される (ランタイムメモリーからも該当する設定コマンドが削除される)。デフォルトは NO

FILTER このインターフェースで受信した IPv6 パケットに適用するトラフィックフィルターの番号を指定する。トラフィックフィルターのアクションは受信直後に適用される。省略時は NONE

例

VLAN orange に IPv6 アドレス「3ffe:1000::1/64」を設定する。また、このアドレスのプレフィックス (3ffe:1000::/64) をルーター通知 (RA) に含める。

```
ADD IPV6 INTERFACE=vlan-orange IP=3ffe:1000::1/64 PUBLISH=YES
```

備考・注意事項

リンクローカルアドレスを自動設定する場合は、CREATE IPV6 INTERFACE コマンドを使う。そのあとで本コマンドを実行することにより、グローバルアドレスを手動設定することができる。また、いきなり本コマンドを実行してグローバルアドレスを設定することもできる。その場合、リンクローカルアドレスも自動的に付与される (CREATE IPV6 INTERFACE コマンドも自動的に実行され则认为てもよい)。

関連コマンド

ADD IPV6 FILTER (35 ページ)

DELETE IPV6 INTERFACE (54 ページ)

SET IPV6 FILTER (73 ページ)

SET IPV6 INTERFACE (75 ページ)

SHOW IPV6 FILTER (86 ページ)

ADD IPV6 ND

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ADD IPV6 ND=*ip6add* **INTERFACE=***vlan-if* **ETHERNET=***macadd* [**PORT=***port-number*]
[**ISROUTER=**{YES|NO}]

ip6add: IPv6 アドレス

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)。ただし、通常 VIRTn を指定することはない

macadd: MAC アドレス (xx-xx-xx-xx-xx-xx の形式)

port-number: スイッチポート番号 (1 ~)

解説

Neighbour キャッシュにスタティックエントリーを追加する。

パラメーター

ND IPv6 アドレス

INTERFACE IPv6 インターフェース名

ETHERNET 物理 (MAC) アドレス

PORT スイッチポート番号。INTERFACE に VLAN を指定した場合のみ必要。

ISROUTER 該当ノードがルーターかどうか。省略時は NO

例

VLAN white 配下のポート 3 に存在する IPv6 アドレス 3ffe:b80:3c:10::e、MAC アドレス 00-90-99-0e-6a-7f のホストの情報を、Neighbour キャッシュに追加する。

```
ADD IPV6 ND=3ffe:b80:3c:10::e INTERFACE=vlan-white
ETHERNET=00-90-99-0e-6a-7f PORT=3
```

関連コマンド

DELETE IPV6 ND (55 ページ)

RESET IPV6 NDCACHE (72 ページ)

SHOW IPV6 NDCACHE (93 ページ)

ADD IPV6 PREFIX

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ADD IPV6 PREFIX=*ip6add/plen* **INTERFACE=***vlan-if* [AUTONOMOUS={YES|NO}]
[ONLINK={YES|NO}] [PREFERRED={*seconds*|INFINITE}] [VALID={*seconds*|
INFINITE}]

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (1 ~ 128 ビット)

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)。ただし、通常 VIRTn を指定することはない

seconds: 時間 (1 ~ 4294967295 秒)

解説

指定インターフェースから送信するルーター通知 (RA) に含めるプレフィックスを追加する。

本コマンドで追加したプレフィックスは、ADD IPV6 INTERFACE コマンドで PUBLISH=YES を指定したアドレスのプレフィックスと同様、RA のプレフィックス情報オプション (Prefix Information option) で通知される。

パラメーター

PREFIX 通知するプレフィックス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する (例: 3ffe:b80:3c:20::/64)

INTERFACE プレフィックスを通知する IPv6 インターフェース名

AUTONOMOUS プレフィックス情報オプションの A フラグ (自動設定 (Autonomous address-configuration) フラグ) を立てるかどうかが。省略時は YES

ONLINK プレフィックス情報オプションの L フラグ (オンリンク (on-link) フラグ) を立てるかどうかが。省略時は YES

PREFERRED プレフィックスの推奨有効時間 (秒)。VALID パラメーターの値と同じか、それよりも小さい値でなくてはならない。省略時は 604800 秒 (7 日)

VALID プレフィックスの最終有効時間 (秒)。少なくとも PREFERRED パラメーターの値と同じか、それ以上に設定しなくてはならない。省略時は 2592000 秒 (30 日)

例

VLAN white 配下にプレフィックス 3ffe:1:2:abcd::/64 を通知する。

```
ADD IPV6 PREFIX=3ffe:1:2:abcd::/64 INTERFACE=vlan-white PREFERRED=250000  
VALID=500000
```

備考・注意事項

プレフィックスを通知するには、本コマンドで通知対象のプレフィックスを指定するだけでなく、ENABLE IPV6 ADVERTISE コマンドでルーター通知（RA）を有効にする必要がある。

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE（40 ページ）

DELETE IPV6 PREFIX（56 ページ）

ENABLE IPV6 ADVERTISE（67 ページ）

SET IPV6 PREFIX（80 ページ）

SHOW IPV6 NDCONFIG（95 ページ）

ADD IPV6 RIP

カテゴリー：IPv6 / 経路制御 (RIPng)

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ADD IPV6 RIP INTERFACE=*vlan-if* **POISONREVERSE={ON|OFF}**

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

指定した IPv6 インターフェースで RIPng を有効にする。

パラメーター

INTERFACE IPv6 インターフェース名。VLAN インターフェースかトンネルインターフェース (VIRT) を指定できる

POISONREVERSE ポイズンリバースの有効 (ON)・無効 (OFF)。省略時は無効

例

VLAN orange で RIPng を有効にする。

```
ADD IPV6 RIP INTERFACE=vlan-orange
```

備考・注意事項

POISONREVERSE パラメーターは後から変更できないので注意が必要。変更したいときは、DELETE IPV6 RIP コマンドでいったん RIPng を無効にしたあと、ADD IPV6 RIP コマンドで再度有効化するしかない。

関連コマンド

DELETE IPV6 RIP (57 ページ)

DISABLE IPV6 RIP (65 ページ)

ENABLE IPV6 RIP (71 ページ)

SHOW IPV6 RIP (97 ページ)

ADD IPV6 ROUTE

カテゴリー：IPv6 / 経路制御

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

```
ADD IPV6 ROUTE=ip6add/plen INTERFACE=vlan-if [NEXTHOP=ip6add]  
[METRIC=1..16] [PREFERENCE=0..65535]
```

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (0~128 ビット)

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

IPv6 ルーティングテーブルにスタティック経路を追加する。

パラメーター

ROUTE 宛先ネットワークの IPv6 アドレス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する (例: 3ffe:1234::/64)。デフォルトルートの場合は 0:0:0:0:0:0:0/0 (「::/0」と省略可) を指定する

INTERFACE 本経路宛てのパケットを送出する IPv6 インターフェース

NEXTHOP ネクストホップルーターの IPv6 アドレス。INTERFACE が VIRT のときは省略可能 (または値として「::」を指定可能)。ただし、6to4 トンネルインターフェース上にデフォルト経路を設定するときは、本パラメーターに 6to4 リレールーターのアドレスを指定すること

METRIC RIPv6 用メトリック。省略時は 1

PREFERENCE 経路選択時の優先度。小さいほど優先度が高い。複数の経路が存在するときは、もっとも優先度の高い経路が使用される。省略時の値はデフォルト経路が 360、その他のスタティック経路が 60。なお、インターフェース経路は優先度 0、RIPv6 経路は優先度 100 となる

例

2001:1000:2000::/48 への経路を設定する。

```
ADD IPV6 ROUTE=2001:1000:2000::/48 INT=vlan-orange  
NEXTHOP=2001:1:10:30:200:f4ff:fe12:3
```

デフォルトルートを設定する。

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=vlan-white NEXT=3ffe:b80:3c:10::2
```

デフォルト経路を IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースに向ける。トンネルインターフェースの名

前が「VIRTn」であることに注意。

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 NEXTHOP=::
```

6to4 環境において、他の 6to4 サイトへの経路と一般の IPv6 サイトへのデフォルト経路を設定する。ここでは、6to4 インターフェース名が virt0、6to4 リレールーターの IPv6 アドレスを 2002:ac10:a01::1 と仮定している。

```
ADD IPV6 ROUTE=2002::/16 INT=virt0 (他の 6to4 サイトへの経路)
```

```
ADD IPV6 ROUTE=::/0 INT=virt0 NEXT=2002:ac10:a01::1 (一般の IPv6 サイトへの経路)
```

関連コマンド

ADD IPV6 6TO4 (33 ページ)

DELETE IPV6 ROUTE (58 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

SHOW IPV6 ROUTE (99 ページ)

ADD IPV6 TUNNEL

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

```
ADD IPV6 TUNNEL LOCAL=ipadd TARGET=ipadd [ IPADDRESS=ip6add ]
[ INTERFACE=interface ]
```

ipadd: IPv4 アドレス

ip6add: IPv6 アドレス

interface: インターフェース名 (VIRTn の形式。n は 0 ~ 255)

解説

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースを作成する。

トンネルインターフェースにはインターフェース名「VIRTn」(n は 0 ~) が割り当てられ、自エンドの IPv4 アドレスに基づきリンクローカルアドレスが自動設定される。

パラメーター

LOCAL 自エンドの IPv4 アドレス

TARGET 対向エンドの IPv4 アドレス

IPADDRESS トンネルインターフェースの IPv6 リンクローカルアドレス。省略時は LOCAL の値をもとに自動設定される。

INTERFACE トンネルインターフェース名。VIRTn の形式 (n は 0 ~ 255)。省略時は、n として空いている中でもっとも小さい番号が自動的に割り当てられる。

例

IPv4 アドレス 1.1.1.1 (自分側) と 2.2.2.2 (相手側) の間に IPv6 over IPv4 トンネルを張る。

```
ADD IPV6 TUNNEL LOCAL=1.1.1.1 TARGET=2.2.2.2
```

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE (40 ページ)

ADD IPV6 ROUTE (46 ページ)

DELETE IPV6 TUNNEL (59 ページ)

SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)

SHOW IPV6 TUNNEL (101 ページ)

CREATE IPV6 INTERFACE

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

CREATE IPV6 INTERFACE=vlan-if [DUPTRANS=1..16] [RETRANS=0..4294967200]

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID)

解説

IPv6 インターフェースを作成し、リンクローカルアドレスを自動設定する。

作成した IPv6 インターフェースにグローバルアドレスを追加するには、ADD IPV6 INTERFACE コマンドを使う。

パラメーター

INTERFACE インターフェース名

DUPTRANS 仮のリンクローカルアドレスに対する重複検出 (DAD) 用近隣要請 (NS) パケット送信回数 (DupAddrDetectTransmits)。省略時は 1

RETRANS このインターフェースから送信するルーター通知 (RA) の Retrans Timer フィールドに設定する値 (AdvRetransTimer)。この値は近隣要請 (NS) メッセージの送出間隔を指定するもので、単位はミリ秒。ただし、指定値が 100 の倍数でない場合は切り上げが行われる (101 を指定した場合は 200 となる)。省略時は 0 (特に指定しないことを示す)

例

VLAN white 上に IPv6 インターフェースを作成し、リンクローカルアドレスを自動設定する。

```
CREATE IPV6 INT=vlan-white
```

備考・注意事項

本コマンドはおもに、リンクローカルアドレスのみで運用するインターフェースに対して使う。インターフェースにグローバルアドレスやサイトローカルアドレスを設定する場合、ADD IPV6 INTERFACE コマンドを使えばリンクローカルアドレスも自動設定される。

本製品は RA の受信に対応していないため、グローバルアドレスやサイトローカルアドレスの自動設定はできない。

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE (40 ページ)

ADD IPV6 TUNNEL (48 ページ)

DELETE IPV6 INTERFACE (54 ページ)

DESTROY IPV6 INTERFACE (60 ページ)

SET IPV6 INTERFACE (75 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)

DELETE IPV6 6TO4

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 6TO4 IP=*ipadd*

ipadd: IPv4 アドレス

解説

6to4 トンネルインターフェースを削除する。

パラメーター

IP 自エンドの IPv4 アドレス

例

IPv4 インターフェース (アドレス 192.168.100.1) 上の 6to4 トンネルインターフェースを削除する。

```
DELETE IPV6 6TO4 IP=192.168.100.1
```

関連コマンド

ADD IPV6 6TO4 (33 ページ)

SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)

SHOW IPV6 TUNNEL (101 ページ)

DELETE IPV6 FILTER

カテゴリー：IPv6 / IPv6 フィルター

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 FILTER=*filter-id* **ENTRY=**{*entry-id*|**ALL**}

filter-id: フィルター番号 (0~99)

entry-id: エントリー番号 (1~4294967294)

解説

IPv6 フィルターから指定したエントリー（ルール）を削除する。

パラメーター

FILTER フィルター番号 (0~99)。100~299 も入力できるが使用できないので注意。

ENTRY エントリー番号。この番号は可変なので、必ず SHOW IPV6 FILTER コマンドで確認してから指定すること (Ent.フィールド)。ALL を指定した場合は、該当するフィルターの全エントリーが削除される。

備考・注意事項

エントリーを削除しても、他のエントリーの番号は変わらない。

関連コマンド

ADD IPV6 FILTER (35 ページ)

SET IPV6 FILTER (73 ページ)

SHOW IPV6 FILTER (86 ページ)

DELETE IPV6 HOST

カテゴリー：IPv6 / 名前解決

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 HOST=*hostname*

hostname: ホスト名

解説

IPv6 ホストテーブルからホスト名の登録を削除する。

パラメーター

HOST ホスト名

関連コマンド

ADD IPV6 HOST (39 ページ)

SHOW IPV6 HOST (88 ページ)

DELETE IPV6 INTERFACE

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 INTERFACE=vlan-if IPADDRESS=ip6add

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

ip6add: IPv6 アドレス

解説

インターフェースから IPv6 アドレスを削除する。

パラメーター

INTERFACE インターフェース名

IPADDRESS 削除する IPv6 アドレス

例

VLAN orange からグローバルアドレス「3ffe:1000::1」を削除する。

```
DELETE IPV6 INTERFACE=vlan-orange IP=3ffe:1000::1
```

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE (40 ページ)

CREATE IPV6 INTERFACE (49 ページ)

DESTROY IPV6 INTERFACE (60 ページ)

SET IPV6 INTERFACE (75 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

DELETE IPV6 ND

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 ND=*ip6add* INTERFACE=*vlan-if*

ip6add: IPv6 アドレス

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)。ただし、通常 VIRTn を指定することはない

解説

Neighbour キャッシュのダイナミックおよびスタティックエントリーを削除する。

パラメーター

ND IPv6 アドレス

INTERFACE IPv6 インターフェース名

例

VLAN white 配下の IPv6 アドレス 3ffe:b80:3c:10::e のホストの情報を、Neighbour キャッシュから削除する。

```
DELETE IPV6 ND=3ffe:b80:3c:10::e INTERFACE=vlan-white
```

関連コマンド

ADD IPV6 ND (42 ページ)

RESET IPV6 NDCACHE (72 ページ)

SHOW IPV6 NDCACHE (93 ページ)

DELETE IPV6 PREFIX

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 PREFIX=*ip6add/plen* INTERFACE=*vlan-if*

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (1 ~ 128 ビット)

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)。ただし、通常 VIRTn を指定することはない

解説

指定インターフェースから送信するルーター通知 (RA) に含めるプレフィックスを削除する。

パラメーター

PREFIX 通知をやめるプレフィックス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する(例:3ffe:b80:3c:20::/64)

INTERFACE プレフィックスを通知している IPv6 インターフェース名

関連コマンド

ADD IPV6 PREFIX (43 ページ)

DISABLE IPV6 ADVERTISE (62 ページ)

SHOW IPV6 NDCONFIG (95 ページ)

DELETE IPV6 RIP

カテゴリー：IPv6 / 経路制御 (RIPng)

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 RIP INTERFACE=*vlan-if*

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

指定した IPv6 インターフェースで RIPng を無効にする。

パラメーター

INTERFACE IPv6 インターフェース名

関連コマンド

ADD IPV6 RIP (45 ページ)

DISABLE IPV6 RIP (65 ページ)

ENABLE IPV6 RIP (71 ページ)

SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)

DELETE IPV6 ROUTE

カテゴリー：IPv6 / 経路制御

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 ROUTE=ip6add/plen INTERFACE=vlan-if NEXTHOP=ip6add

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (0~128 ビット)

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

IPv6 ルーティングテーブルから経路エントリを削除する。

パラメーター

ROUTE 宛先ネットワークの IPv6 アドレス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する (例: 3ffe:1234::/64)。デフォルトルートの場合は 0:0:0:0:0:0/0 (「::/0」と省略可) を指定する

INTERFACE 本経路宛てのパケットを送出する IPv6 インターフェース

NEXTHOP ネクストホップルーターの IPv6 アドレス

例

2001:1000:2000::/48 へのスタティック経路を削除する。

```
DELETE IPV6 ROUTE=2001:1000:2000::/48 INT=vlan-orange
next=3ffe:b80:3c:20:290:99ff:fe42:1111
```

デフォルトルートを削除する。

```
DELETE IPV6 ROUTE=::/0 INT=vlan-white NEXT=3ffe:b80:3c:10::2
```

関連コマンド

ADD IPV6 ROUTE (46 ページ)

SHOW IPV6 ROUTE (99 ページ)

DELETE IPV6 TUNNEL

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DELETE IPV6 TUNNEL=*ip6add* INTERFACE=*interface*

ip6add: IPv6 アドレス

interface: インターフェース名 (VIRTn の形式。n は 0 ~ 255)

解説

IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースを削除する。

パラメーター

TUNNEL トンネルインターフェースの IPv6 アドレス。SHOW IPV6 TUNNEL コマンドか SHOW IPV6 INTERFACE コマンドで確認できる。

INTERFACE トンネルインターフェース名。VIRTn の形式 (n は 0 ~ 255)。SHOW IPV6 TUNNEL コマンドで確認できる。

例

トンネルインターフェース virt0 を削除する。

```
DELETE IPV6 TUNNEL=fe80::ac10:14fe INTERFACE=virt0
```

関連コマンド

ADD IPV6 TUNNEL (48 ページ)

SHOW IPV6 TUNNEL (101 ページ)

DESTROY IPV6 INTERFACE

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DESTROY IPV6 INTERFACE=*vlan-if*

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

IPv6 インターフェースを削除する。

パラメーター

INTERFACE インターフェース名

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE (40 ページ)

CREATE IPV6 INTERFACE (49 ページ)

DELETE IPV6 INTERFACE (54 ページ)

SET IPV6 INTERFACE (75 ページ)

SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)

DISABLE IPV6

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DISABLE IPV6

解説

IPv6 モジュールを無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ENABLE IPV6 (66 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

DISABLE IPV6 ADVERTISE

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DISABLE IPV6 ADVERTISE [INTERFACE=*vlan-if*]

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)。ただし、通常 VIRTn を指定することはない

解説

ルーター通知 (RA) パケットの送信を無効にする。デフォルトは無効。

インターフェース名を指定した場合は、該当するインターフェースでのみ RA の送信を無効にする。インターフェース名を指定しなかった場合は、すべてのインターフェースで RA の送信を無効にする。

パラメーター

INTERFACE IPv6 インターフェース名。省略時はすべてのインターフェースが対象となる

関連コマンド

ENABLE IPV6 ADVERTISE (67 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

DISABLE IPV6 DEBUG

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DISABLE IPV6 DEBUG

解説

IPv6 モジュールのデバッグ表示機能を無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ENABLE IPV6 DEBUG (68 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

DISABLE IPV6 MTUDISCOVERY

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DISABLE IPV6 MTUDISCOVERY

解説

経路 MTU 探索 (Path MTU Discovery) を無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ENABLE IPV6 MTUDISCOVERY (70 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

DISABLE IPV6 RIP

カテゴリー：IPv6 / 経路制御 (RIPng)

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

DISABLE IPV6 RIP

解説

RIPng を無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ADD IPV6 RIP (45 ページ)

DELETE IPV6 RIP (57 ページ)

ENABLE IPV6 RIP (71 ページ)

SHOW IPV6 RIP (97 ページ)

ENABLE IPV6

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ENABLE IPV6

解説

IPv6 モジュールを有効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

DISABLE IPV6 (61 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

ENABLE IPV6 ADVERTISE

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ENABLE IPV6 ADVERTISE [INTERFACE=*vlan-if*]

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)。ただし、通常 VIRTn を指定することはない

解説

ルーター通知 (RA) パケットの送信を有効にする。デフォルトは無効。

インターフェース名を指定した場合は、該当するインターフェースでのみ RA の送信を有効にする。インターフェース名を指定しなかった場合は、すべてのインターフェースで RA の送信を有効にする。

パラメーター

INTERFACE IPv6 インターフェース名。省略時はすべてのインターフェースが対象となる

備考・注意事項

RA で通知されるのは、本製品のインターフェースに設定されたアドレスのプレフィックスのうち、PUBLISH パラメーターが YES に設定されているもの、および、ADD IPV6 PREFIX コマンドで指定したプレフィックス。

関連コマンド

DISABLE IPV6 ADVERTISE (62 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

ENABLE IPV6 DEBUG

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ENABLE IPV6 DEBUG

解説

IPv6 モジュールのデバッグ表示機能を有効にする。デフォルトは無効。

入力・出力・画面例

```

Manager > enable ipv6 debug

Info (1066271): IPv6 debugging has been enabled.

Manager > Sending to Vlan: outIpIndex=2, outAddrIndex=0
Sending to Vlan: nextHop=:
Sending to Vlan: destAddress=ff02::0009 portNumber=0
calling vlanDataRequest on all ports
Sending to Vlan: outIpIndex=1, outAddrIndex=0
Sending to Vlan: nextHop=:
Sending to Vlan: destAddress=ff02::0009 portNumber=0
calling vlanDataRequest on all ports

Manager > Received IPv6 pkt: DestAddress: ff02::0009
SrcAddress:fe80::0200:f4ff:fec4:0463
Received IPv6 pkt: pktL=32, bufIpInd=1, bufLogInd=0, nH=17 localType = 524288
Received IPv6 pkt: addrIndex=0, intName=vlan10, ifIntAddrNum=2 ipIntIndex=1
iplocaltype=0
Local packet received

Manager > Received IPv6 pkt: DestAddress: 3ffe:0b80:003c:0020:0290:99ff:fe0e:e00
a
SrcAddress:3ffe:0b80:003c:0010:0290:99ff:fe42:00f2
Received IPv6 pkt: pktL=16, bufIpInd=1, bufLogInd=1, nH=58 localType = 0
Received IPv6 pkt: addrIndex=1, intName=vlan10, ifIntAddrNum=2 ipIntIndex=1
iplocaltype=0
Forwarding IPv6 pkt: ipInterface=2, addIndex=1
nexthop=:
dest=3ffe:0b80:003c:0020::
Sending to Vlan: outIpIndex=2, outAddrIndex=1
Sending to Vlan: nextHop=:
Sending to Vlan: destAddress=3ffe:0b80:003c:0020:0290:99ff:fe0e:e00a portNumber=
0
Don't know how to send, creating Vlan NDCache entry
int=2, m=1, srcLink=00-00-cd-08-17-0c

```

```
destAddr=ff02::0001:ff0e:e00a  
ndAddr=3ffe:0b80:003c:0020:0290:99ff:fe0e:e00a  
multicast=1  
dest=ff02::0001:ff0e:e00a  
Sending to Vlan: outIpIndex=2, outAddrIndex=1  
Sending to Vlan: nextHop=::  
Sending to Vlan: destAddress=ff02::0001:ff0e:e00a portNumber=0  
calling vlanDataRequest on all ports
```

備考・注意事項

本コマンドは、トラブルシューティング時など、内部情報の確認が必要な場合を想定したものですので、ご使用に際しては弊社技術担当にご相談ください。

関連コマンド

DISABLE IPV6 DEBUG (63 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

ENABLE IPV6 MTUDISCOVERY

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ENABLE IPV6 MTUDISCOVERY

解説

経路 MTU 探索 (Path MTU Discovery) を有効にする。デフォルトは無効。

有効時は、ICMPv6 Packet Too Big メッセージを解釈して最適な経路 MTU を選択する。

関連コマンド

DISABLE IPV6 MTUDISCOVERY (64 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

ENABLE IPV6 RIP

カテゴリー：IPv6 / 経路制御 (RIPng)

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

ENABLE IPV6 RIP

解説

RIPng を有効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ADD IPV6 RIP (45 ページ)

DELETE IPV6 RIP (57 ページ)

DISABLE IPV6 RIP (65 ページ)

SHOW IPV6 RIP (97 ページ)

RESET IPV6 NDCACHE

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

RESET IPV6 NDCACHE

解説

Neighbour キャッシュ内のエントリーをすべて削除する。

関連コマンド

ADD IPV6 ND (42 ページ)

DELETE IPV6 ND (55 ページ)

SHOW IPV6 NDCACHE (93 ページ)

SET IPV6 FILTER

カテゴリー：IPv6 / IPv6 フィルター

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

```
SET IPV6 FILTER=filter-id ENTRY=entry-id [SOURCE=ip6add/plen]
[ACTION={INCLUDE|EXCLUDE}] [SPORT={port-name|[port]:[port]|ANY}]
[DESTINATION=ip6add/plen] [DPORT={port-name|[port]:[port]|ANY}]
[ICMPCODE={icmp-code-name|icmp-code-id|ANY}] [ICMPTYPE={icmp-type-name|
icmp-type-id|ANY}] [LOG={4..1950|DUMP|HEADER|NONE}] [OPTIONS={YES|NO}]
[PROTOCOL={protocol|ANY|ICMP|OSPF|TCP|UDP}] [SESSION={ANY|ESTABLISHED|
START}] [SIZE={size|ANY}]
```

filter-id: フィルター番号 (0~99)

entry-id: エントリー番号 (1~4294967294)

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (0~128 ビット)

port-name: サービス名

port: TCP/UDP ポート番号 (0~65535)

icmp-code-name: ICMP コード名

icmp-code-id: ICMP コード番号 (0~65535)

icmp-type-name: ICMP メッセージ名

icmp-type-id: ICMP メッセージ番号 (0~65535)

protocol: IPv6 プロトコル番号 (0~65535)

size: データグラム長

解説

IPv6 フィルターエントリーの設定を変更する。

パラメーター

FILTER フィルター番号 (0~99)。100~299 も入力できるが使用できないので注意。

ENTRY エントリー番号。この番号は可変なので、必ず SHOW IPV6 FILTER コマンドで確認してから指定すること (Ent.フィールド)。

ACTION マッチしたパケットに対する処理。INCLUDE はパケットを通過させる。EXCLUDE はパケットを破棄する。

SOURCE 始点 IPv6 アドレス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する。必須パラメーター。

SPORT 始点 TCP/UDP ポートあるいは定義済みのサービス名。ポート指定時は PROTOCOL に TCP か UDP を指定する必要がある。low:high の形式で low ~ high の範囲指定も可能。「low:」は low ~ 65535 の意味、「:high」は 0 ~ high の意味になる。デフォルトは ANY

DESTINATION 終点 IPv6 アドレス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する。省略時はすべての終点アドレスにマッチする

DPORT 終点 TCP/UDP ポートあるいは定義済みのサービス名。ポート指定時は PROTOCOL に TCP

か UDP を指定する必要がある。low:high の形式で low ~ high の範囲指定も可能。「low:」は low ~ 65535 の意味、「:high」は 0 ~ high の意味になる。デフォルトは ANY

ICMPCODE ICMPv6 コード番号または定義済みのコード名。PROTOCOL=ICMP の場合のみ有効

ICMPTYPE ICMPv6 メッセージ番号または定義済みのメッセージ名。PROTOCOL=ICMP の場合のみ有効

LOG フィルタールールにマッチしたパケットの情報をログに記録するかどうか。記録する場合はどの情報を記録するかも指定する。デフォルトの NONE は、ログに記録しないことを意味する。4 ~ 1950 の数値を指定した場合は、フィルター番号、ルール番号、IP ヘッダー情報 (IP アドレス、プロトコル、ポート番号、サイズ) が「IPFIL/PASS」(INCLUDE アクションの場合) または「IPFIL/FAIL」(EXCLUDE アクションの場合) タイプのメッセージとして記録される。これに加え、「IPFIL/DUMP」タイプのメッセージとして、TCP、UDP、ICMP の場合、データ部分の先頭 4 ~ 1600 バイトが、その他プロトコルの場合は IP データの先頭 4 ~ 1600 バイトが記録される。DUMP は LOG=40 と同じ動作となる。HEADER を指定した場合は、フィルター番号、ルール番号、IP ヘッダー情報のみが記録される。

OPTIONS オプションヘッダー (Hop-by-Hop Options Header または Destination Options Header) が含まれているかどうか。YES を指定した場合は、オプションヘッダーを含むパケットだけにマッチする。デフォルトは NO。

PROTOCOL IPv6 プロトコル番号 (IPv4 と同じ) または定義済みのプロトコル名を指定する。DPORT、SPORT を指定するときは、TCP、UDP、ANY のいずれかを指定する必要がある。また、ICMPCODE、ICMPTYPE 指定時は、ICMP を指定する。

SESSION TCP のセッション制御情報。ANY はすべての TCP パケット、START は接続開始パケット (SYN=1、ACK=0)、ESTABLISHED は接続済みパケット (ACK=1) を意味する。

SIZE データグラムサイズ。payload length <= size のときにマッチする。デフォルトは ANY。

関連コマンド

ADD IPV6 FILTER (35 ページ)

DELETE IPV6 FILTER (52 ページ)

SHOW IPV6 FILTER (86 ページ)

SET IPV6 INTERFACE

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

```
SET IPV6 INTERFACE=vlan-if IPADDRESS=ip6add/plen [PUBLISH={YES|NO}]
[PREFERRED={seconds|INFINITE}] [VALID={seconds|INFINITE}] [FILTER=0..99|
NONE]
```

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (1~128 ビット)

seconds: 時間 (1~4294967295 秒)

解説

IPv6 インターフェースの設定、あるいは、IPv6 インターフェースに割り当てたアドレスの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

INTERFACE インターフェース名

IPADDRESS IPv6 アドレス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する (例: 3ffe:1234::1/64)。このパラメーターは、アドレスの有効期限を変更したいとき (PREFERRED か VALID パラメーターを指定するとき) に指定する

PUBLISH IPADDRESS で指定したアドレスのプレフィックスを、ルーター通知 (RA) に含めるかどうか

PREFERRED IPADDRESS で指定した IPv6 アドレスの推奨有効時間 (秒)。VALID パラメーターの値と同じか、それよりも小さい値でなくてはならない。

VALID IPADDRESS で指定した IPv6 アドレスの最終有効時間 (秒)。有限な値を指定した場合で、なおかつ、ADD IPV6 INTERFACE コマンドの DECREMENT パラメーターに YES を指定した場合、最終有効時間を過ぎるとこのアドレスは消去される (ランタイムメモリーからも該当する設定コマンドが削除される)。少なくとも PREFERRED パラメーターの値と同じか、それ以上に設定しなくてはならない。

FILTER このインターフェースで受信した IPv6 パケットに適用するトラフィックフィルターの番号

例

VLAN orange に設定した IPv6 アドレス「3ffe:b80:3c:20::1/64」のプレフィックス (3ffe:b80:3c:20::/64) を RA に含めるよう設定する。

```
SET IPV6 INTERFACE=vlan-orange IP=3ffe:b80:3c:20::1/64 PUBLISH=YES
```

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE (40 ページ)

CREATE IPV6 INTERFACE (49 ページ)

DELETE IPV6 INTERFACE (54 ページ)

DESTROY IPV6 INTERFACE (60 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)

SET IPV6 MTU

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SET IPV6 MTU=mtu INTERFACE=vlan-if

mtu: MTU 値 (1280 ~)

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

IPv6 インターフェースの MTU (Maximum Transmission Unit) を変更する。

パラメーター

MTU MTU 値。最小値は 1280。最大値は物理インターフェースの上限値 (SHOW IPV6 INTERFACE コマンドの True MTU 欄で確認できる)

INTERFACE IPv6 インターフェース名

関連コマンド

SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)

SET IPV6 ND

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

```
SET IPV6 ND INTERFACE=vlan-if [DUPTRANS=1..16] [HOP=1..255] [LIFE=0|
4..9000] [MAXAINT=4..1800] [MCONF={YES|NO}] [MINAINT=3..1350]
[MTU=1280..65535] [OCONF={YES|NO}] [REACH=0..3600000]
[RETRANS=0..4294967200]
```

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)。ただし、通常 VIRTn を指定することはない

解説

近隣探索プロトコルの動作を規定する各種パラメーター (タイマーなど) を変更する。

各パラメーターはインターフェースごとに設定する。パラメーターは、指定インターフェースから送信する近隣要請 (NS)、ルーター通知 (RA) メッセージに反映される。

パラメーター

INTERFACE IPv6 インターフェース名

DUPTRANS 仮のリンクローカルアドレスに対する重複検出 (DAD) 用近隣要請 (NS) パケット送信回数 (DupAddrDetectTransmits)。省略時は 1

HOP ルーター通知 (RA) の Cur Hop Limit フィールドに設定する値 (AdvCurHopLimit)。省略時は 255

LIFE ルーター通知 (RA) の Router Lifetime フィールドに設定する値 (AdvDefaultLifetime)。単位は秒。有効な値は 0 または MAXAINT ~ 9000。0 はデフォルトルーターにはならないことを示す。省略時は 1800

MAXAINT 定期的なルーター通知 (RA) の最大送信間隔 (MaxRtrAdvInterval)。単位は秒。省略時は 600

MCONF ルーター通知 (RA) の M フラグ (Managed address configuration フラグ) を立てるかどうか (AdvManagedFlag)。YES はフラグを立てる。NO はフラグを立てない。省略時は NO

MINAINT 定期的なルーター通知 (RA) の最小送信間隔 (MinRtrAdvInterval)。単位は秒。省略時は 200

MTU ルーター通知 (RA) の MTU オプションで通知するリンク MTU (AdvLinkMTU)。省略時は 0 (通知しない)

OCONF ルーター通知 (RA) の O フラグ (Other stateful configuration フラグ) を立てるかどうか (AdvOtherConfigFlag)。YES はフラグを立てる。NO はフラグを立てない。省略時は NO

REACH ルーター通知 (RA) の Reachable Time フィールドに設定する値 (AdvReachableTime)。単位はミリ秒。省略時は 0 (未指定)

RETRANS 本製品が送信するルーター通知 (RA) の Retrans Timer フィールドに設定する値 (AdvRetransTimer)

この値は近隣要請（NS）メッセージの送出間隔を指定するもので、単位はミリ秒。ただし、指定値が 100 の倍数でない場合は切り上げが行われる（101 を指定した場合は 200 となる）。省略時は 0（特に指定しないことを示す）

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE（40 ページ）

CREATE IPV6 INTERFACE（49 ページ）

SHOW IPV6（81 ページ）

SHOW IPV6 NDCONFIG（95 ページ）

SET IPV6 PREFIX

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SET IPV6 PREFIX=*ip6add/plen* **INTERFACE=***vlan-if* [AUTONOMOUS={YES|NO}]
[ONLINK={YES|NO}] [PREFERRED={*seconds*|INFINITE}] [VALID={*seconds*|
INFINITE}]

ip6add: IPv6 アドレス

plen: プレフィックス長 (1~128 ビット)

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)。ただし、通常 VIRTn を指定することはない

seconds: 時間 (1~4294967295 秒)

解説

ルーター通知 (RA) で通知するプレフィックスの設定を変更する。

パラメーター

PREFIX 通知するプレフィックス。アドレス/プレフィックス長の形式で指定する (例: 3ffe:b80:3c:20::/64)

INTERFACE RA を送信する IPv6 インターフェース名

AUTONOMOUS プレフィックス情報オプションの A フラグ (自動設定 (Autonomous address-configuration) フラグ) を立てるかどうかが。省略時は YES

ONLINK プレフィックス情報オプションの L フラグ (オンリンク (on-link) フラグ) を立てるかどうかが。省略時は YES

PREFERRED プレフィックスの推奨有効時間 (秒)。VALID パラメーターの値と同じか、それよりも小さい値でなくてはならない。省略時は 604800 秒 (7 日)

VALID プレフィックスの最終有効時間 (秒)。少なくとも PREFERRED パラメーターの値と同じか、それ以上に設定しなくてはならない。省略時は 2592000 秒 (30 日)

関連コマンド

ADD IPV6 INTERFACE (40 ページ)

ADD IPV6 PREFIX (43 ページ)

DELETE IPV6 PREFIX (56 ページ)

SHOW IPV6 NDCONFIG (95 ページ)

SHOW IPV6

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6

解説

IPv6 モジュールの各種設定情報を表示する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show ipv6

IPv6 Module Configuration
-----

Module Status ..... Enabled
IPv6 Packet Forwarding ..... Enabled
IPv6 RIP ..... Disabled
IPv6 Echo Reply ..... Enabled
Source-Routed Packets ..... Forwarded
IPv6 MTU Discovery ..... Disabled

Routing Protocols

RIP Neighbours ..... 1

Active Routes:

Static ..... 5
Interface ..... 2
Neighbour Discovery..... 0
RIP ..... 0
Other ..... 0
-----
Total Number of routes..... 7

Discarded routes ..... 0

```

Module Status	IPv6 モジュールの有効・無効
IPv6 Packet Forwarding	IPv6 パケット転送の有効・無効
IPv6 RIP	RIPng の有効・無効
IPv6 Echo Reply	ICMPv6 Echo Request に応答するかどうか

Source-Routed Packets	ソースルートパケットの処理方法
IPv6 MTU Discovery	経路 MTU 探索の有効・無効
RIP Neighbours	RIPng ピアの数
Static	スタティック経路数
Interface	インターフェース（ダイレクト）経路数
Neighbour Discovery	近隣探索プロトコルにより取得した経路数
RIP	RIPng 経路数
Other	その他の経路数
Total Number of routes	合計経路数
Discarded routes	近隣探索プロトコルにより、よりよい経路が見つかったために破棄された経路の数。スタティック経路は破棄されない

表 6:

SHOW IPV6 COUNTER

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 COUNTER

解説

IPv6 モジュールの各種統計カウンターを表示する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show ipv6 counter

IPV6 MIB Counters
-----

Interface Counters

Interface: vlan10
  InReceives ..... 1979836      OutForwDatagrams ..... 1984804
  InNoRoutes ..... 0            OutRequests ..... 208
  InDiscards ..... 0            OutDiscards ..... 0
  InAddrErrors ..... 0          OutFragOKs ..... 0
  InUnknownProtos ..... 0       OutFragFails ..... 0
  InTruncatedPkts ..... 0       OutFragCreates ..... 0
  InMcastPkts ..... 0           OutMcastPkts ..... 24
  ReasmReqds ..... 0            ReasmOKs ..... 0
  ReasmFails ..... 0
  InDelivers ..... 1985278
  InHdrErrors ..... 0
  InTooBigErrors ..... 0

Interface Counters

Interface: vlan20
  InReceives ..... 1990960      OutForwDatagrams ..... 1984801
  InNoRoutes ..... 0            OutRequests ..... 436
  InDiscards ..... 43           OutDiscards ..... 0
  InAddrErrors ..... 0          OutFragOKs ..... 0
  InUnknownProtos ..... 0       OutFragFails ..... 0
  InTruncatedPkts ..... 0       OutFragCreates ..... 0
  InMcastPkts ..... 0           OutMcastPkts ..... 241
  ReasmReqds ..... 0            ReasmOKs ..... 0
  ReasmFails ..... 0
  InDelivers ..... 1985732

```

InHdrErrors	43		
InTooBigErrors	0		
ICMP counters			
inMsgs	460	OutMsgs	442
InErrors	0	OutErrors	0
InDestUnreachs	6	OutDestUnreachs	6
InAdminProhibs	0	OutAdminProhibs	0
InTimeExcds	8	OutTimeExcds	0
InParmProblems	0	OutParmProblems	0
InPktTooBigs	0	OutPktTooBigs	0
InEchos	7	OutEchos	11
InEchoReplies	11	OutEchoReplies	7
InRouterSolicits	0	OutRouterSolicits	0
InRouterAdvert	36	OutRouterAdvert	39
InNeighborSolicits	223	OutNeighborSolicits	193
InNeighborAdvert	174	OutNeighborAdvert	220
InRedirects	0	OutRedirects	0
InGroupMembQueries	0	OutGroupMembQueries	0
InGroupMembResp	0	OutGroupMembResp	0
InGroupMembReduct	0	OutGroupMembReduct	0

InReceives	受信パケット数
InNoRoutes	受信パケットのうち、宛先への経路がないため破棄されたものの数
InDiscards	受信パケットのうち、破棄されたものの数
InAddrErrors	受信パケットのうち、アドレスエラーがあったものの数
InUnknownProtos	受信パケットのうち、次ヘッダーフィールドで指定されたプロトコルが不明のものであった数
InTruncatedPkts	切り詰められたパケットの受信数
InMcastPkts	受信マルチキャストパケット数
ReasmReqds	受信パケットのうち、再構成が必要であったものの数
ReasmFails	受信パケットのうち、再構成に失敗したものの数
InDelivers	受信パケットのうち、上位層への配送に成功したものの数
InHdrErrors	受信パケットのうち、ヘッダーエラーがあったものの数
InTooBigErrors	受信パケットのうち、サイズ過大で破棄されたものの数
OutForwDatagrams	転送のため送出されたパケットの数
OutRequests	送信要求パケット数
OutDiscards	送信前破棄パケット数
OutFragOKs	フラグメント化後送信パケット数
OutFragFails	送信対象パケットのうち、フラグメント化に失敗したものの数
OutFragCreates	送信時に作成されたフラグメントの数
OutMcastPkts	マルチキャストパケット送信数

ReasmOKs	再構成に成功したパケットの数
inMsgs	ICMPv6 メッセージ受信数
InErrors	受信した ICMPv6 メッセージのうちエラーがあったものの数
InDestUnreachs	ICMPv6 宛先到達不能メッセージ受信数
InAdminProhibs	ICMPv6 宛先到達不能/通信不許可メッセージ受信数
InTimeExcds	ICMPv6 時間超過メッセージ受信数
InParmProblems	ICMPv6 パラメーター異常メッセージ受信数
InPktTooBigs	ICMPv6 パケットサイズ過大メッセージ受信数
InEchos	ICMPv6 エコー要求メッセージ受信数
InEchoReplies	ICMPv6 エコー応答メッセージ受信数
InRouterSolicits	ICMPv6 ルーター要請メッセージ受信数
InRouterAdvert	ICMPv6 ルーター通知メッセージ受信数
InNeighborSolicits	ICMPv6 近隣要請メッセージ受信数
InNeighborAdvert	ICMPv6 近隣通知メッセージ受信数
InRedirects	ICMPv6 リダイレクトメッセージ受信数
InGroupMembQueries	ICMPv6 マルチキャストリスナークエリーメッセージ受信数
InGroupMembResp	ICMPv6 マルチキャストリスナーレポートメッセージ受信数
InGroupMembReduct	ICMPv6 マルチキャストリスナー Done メッセージ受信数
OutMsgs	送信対象 ICMP メッセージ数。エラーを含む
OutErrors	送信対象 ICMP メッセージのうち、エラーにより送信されずに破棄されたものの数
OutDestUnreachs	ICMPv6 宛先到達不能メッセージ送信数
OutAdminProhibs	ICMPv6 宛先到達不能/通信不許可メッセージ送信数
OutTimeExcds	ICMPv6 時間超過メッセージ送信数
OutParmProblems	ICMPv6 パラメーター異常メッセージ送信数
OutPktTooBigs	ICMPv6 パケットサイズ過大メッセージ送信数
OutEchos	ICMPv6 エコー要求メッセージ送信数
OutEchoReplies	ICMPv6 エコー応答メッセージ送信数
OutRouterSolicits	ICMPv6 ルーター要請メッセージ送信数
OutRouterAdvert	ICMPv6 ルーター通知メッセージ送信数
OutNeighborSolicits	ICMPv6 近隣要請メッセージ送信数
OutNeighborAdvert	ICMPv6 近隣通知メッセージ送信数
OutRedirects	ICMPv6 リダイレクトメッセージ送信数
OutGroupMembQueries	ICMPv6 マルチキャストリスナークエリーメッセージ送信数
OutGroupMembResp	ICMPv6 マルチキャストリスナーレポートメッセージ送信数
OutGroupMembReduct	ICMPv6 マルチキャストリスナー Done メッセージ送信数

表 7:

SHOW IPV6 FILTER

カテゴリー：IPv6 / IPv6 フィルター

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 FILTER [=filter-id]

filter-id: フィルター番号 (0~99)

解説

IPv6 フィルターの情報を表示する。

パラメーター

FILTER IPv6 フィルター番号 (0~99)。100~299 も入力できるが使用できないので注意

入力・出力・画面例

```
Manager > show ipv6 filter
```

IPv6 Filters									
No.	Ent.	SourceAddress							/splen
		Source Port							
		Dest.Address							/dplen
		Dest. Port							
		Size						Prot (C/T)	
		Options						Session	
		Logging							
		Matches							Act/Pol/Pri
0	1	3ffe:0b80:003c:0010::							/64
		Any							
		::							/128
		Any							
		Any						TCP	
		no						Establ	
		Header							
		47						Include	
0	2	::							/128
		Any							
		::							/128

		Any		
		Any		TCP
		no		Any
		None		
		4		Exclude
0	3	::		/128
		Any		
		::		/128
		Any		
		Any		Any
		no		Any
		None		
		16		Include

		PASSES: 63	FAILS: 159	

SourceAddress	始点 IPv6 アドレス
/splen	始点プレフィックス長
Source Port	始点 TCP/UDP ポート番号
Dest.Address	終点 IPv6 アドレス
/dplen	終点プレフィックス長
Dest. Port	終点 TCP/UDP ポート番号
Size	データグラムサイズ
Prot(C/T)	IPv6 プロトコル。ICMP の場合はメッセージタイプとコードも表示される
Options	オプションヘッダーがあるかどうか
Session	TCP セッションの状態
Logging	ログオプション
Matches	このエントリーにマッチしたパケットの数
Act/Pol/Pri	マッチしたパケットに対する処理。Include (許可) か Exclude (破棄)

表 8:

関連コマンド

- ADD IPV6 FILTER (35 ページ)
- DELETE IPV6 FILTER (52 ページ)
- SET IPV6 FILTER (73 ページ)

SHOW IPV6 HOST

カテゴリー：IPv6 / 名前解決
備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 HOST

解説

IPv6 ホストテーブルの内容を表示する。

入力・出力・画面例

Manager > show ipv6 host

Interface	IPv6 Address	Host Name
-	3ffe:0b80:003c:0010:0200:f4ff:fec4:0463	alice-le1
-	3ffe:0b80:003c:0010:0290:99ff:fe42:00f2	kijitora
-	3ffe:0b80:003c:0010::0001	9800-1
-	3ffe:0b80:003c:0020::0001	9800-2
-	3ffe:0b80:003c:0020::00c8	xxxbsd-i386
-	3ffe:0b80:003c:0020:0290:99ff:fe1e:e00a	starling
vlan10	fe80::0290:99ff:fe1e:e00a	starling11
-	3ffe:0b80:003c:0030:0290:99ff:fe1b:600a	arrouter-eth0

Interface	IPv6 インターフェース
IPv6 Address	IPv6 アドレス
Host name	ホスト名 (ニックネーム)

表 9:

関連コマンド

ADD IPV6 HOST (39 ページ)
DELETE IPV6 HOST (53 ページ)

SHOW IPV6 INTERFACE

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 INTERFACE [=vlan-if]

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

IPv6 インターフェースの情報を表示する。

パラメーター

INTERFACE インターフェース名

入力・出力・画面例

```
Manager > show ipv6 interface

IPv6 Interface Configuration
-----
Interface ..... loopback
Ipv6 Interface Index ..... N/A
Link-layer address ..... N/A
EUI-64 Interface Identifier ..... N/A
True MTU/Link MTU ..... 1500/1500
Multicast status ..... Enabled
Send Router Advertisements ? ..... No
Ipv6 Interface Addresses :
  Int   Addresses                                PLen  Decrement
   Type   Scope  State      Enabled Valid    Preferred  Publish
-----
  0      :::0001                                /128  No
   unicast loop  preferred   Yes    infinite infinite    No
-----

IPv6 Interface Configuration
-----
Interface ..... vlan1
Ipv6 Interface Index ..... 1
Link-layer address ..... 00-00-cd-08-17-0c
Link-layer state ..... Up
EUI-64 Interface Identifier ..... 0200CDFFFE08170C
```

```

IPSec ..... No
True MTU/Link MTU ..... 1500/1500
Multicast status ..... Enabled
Send Router Advertizements ? ..... Yes
Ipv6 Interface Addresses :
  Int   Addresses
  Type   Scope  State      Enabled Valid      PLen  Decrement
              Preferred Publish
-----
  0      fe80::0200:cdff:fe08:170c
        unicast link preferred Yes      infinite infinite No
  1      3ffe:0b80:003c:0001::0001
        unicast global preferred Yes      2592000 604800 Yes

IPV6 Interface Configuration
-----
Interface ..... vlan10#
Ipv6 Interface Index ..... 2
Link-layer address ..... 00-00-cd-08-17-0c
Link-layer state ..... Down
EUI-64 Interface Identifier ..... 0200CDFFFE08170C
True MTU/Link MTU ..... 1500/1500
Multicast status ..... Enabled
Send Router Advertizements ? ..... Yes
Ipv6 Interface Addresses :
  Int   Addresses
  Type   Scope  State      Enabled Valid      PLen  Decrement
              Preferred Publish
-----
  0      fe80::0200:cdff:fe08:170c
        unicast link preferred Yes      infinite infinite No
  1      3ffe:0b80:003c:0100::0001
        unicast global preferred Yes      2592000 604800 Yes

```

Interface	インターフェース名。名前の後の「#」は、該当インターフェースがリンクダウンしていることを示す
IPv6 Interface Index	IPv6 インターフェースのインデックス番号
Link-layer address	データリンク層アドレス（MAC アドレス）
Link-layer state	インターフェースのリンクステータス（Up/Down）
EUI-64 Interface Identifier	IEEE EUI-64 フォーマットのインターフェース識別子
IPSec	未サポート
True MTU/Link MTU	インターフェース MTU。True MTU は物理的な MTU。Link MTU はソフトウェア的に設定された値
Multicast status	マルチキャストパケットを受信するかどうか
Send Router Advertisements?	ルーター通知（RA）の送信が有効かどうか
filter	インターフェースに適用されているトラフィックフィルターの番号
priFilter	未サポート

Int	IPv6 アドレステーブルにおけるインデックス
Addresses	IPv6 アドレス
PLen	プレフィックス長
Decrement	アドレスの有効時間をカウントダウンするかどうか
Type	アドレスの種類 (unicast か anycast)
Scope	アドレススコープ (link、site、global)
State	アドレスの状態。preferred (推奨アドレス) deprecated (非推奨アドレス) duplicated (重複アドレス) tentative (仮アドレス) がある
Enabled	アドレスの有効・無効
Valid	アドレスの最終有効時間 (秒)
Preferred	アドレスの推奨有効時間 (秒)
Publish	このアドレスのプレフィックスを RA に含めるかどうか

表 10:

SHOW IPV6 MULTICAST

カテゴリー：IPv6 / 一般コマンド

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 MULTICAST

解説

IPv6 インターフェースが参加している IPv6 マルチキャストグループアドレスの一覧を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show ipv6 multicast
```

Ipv6 Multicast Memberships:

Multicast Address	Interface
-------------------	-----------

ff02::0001:ff08:170c	vlan10
----------------------	--------

ff02::0001	vlan10
------------	--------

ff02::0001:ff00:0001	vlan10
----------------------	--------

ff02::0002	vlan10
------------	--------

ff02::0001:ff08:170c	vlan20
----------------------	--------

ff02::0001	vlan20
------------	--------

ff02::0001:ff00:0001	vlan20
----------------------	--------

ff02::0002	vlan20
------------	--------

ff02::0009	vlan10
------------	--------

ff02::0009	vlan20
------------	--------

Multicast Address	マルチキャストグループアドレス
-------------------	-----------------

Interface	該当グループに参加しているインターフェース
-----------	-----------------------

表 11:

SHOW IPV6 NDCACHE

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 NDCACHE

解説

同一リンク上に存在する IPv6 ノードのアドレス情報（Neighbour キャッシュ）を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show ipv6 ndcache
```

Ipv6 Neighbour Cache:

Interface	State	LastReachble	IsRouter
3ffe:0b80:003c:0010:0290:99ff:fe42:00f2		00-90-99-42-00-f2	
vlan10 [2] reachable	30000 msec	no	
fe80::0290:99ff:fe42:00f2		00-90-99-42-00-f2	
vlan10 [2] stale	0 msec	no	
3ffe:0b80:003c:0010:0200:f4ff:fec4:0463		00-00-f4-c4-04-63	
vlan10 [1] reachable	12800 msec	yes	
fe80::0290:99ff:fec1:b180		00-90-99-c1-b1-80	
vlan20 [4] stale	0 msec	yes	
3ffe:0b80:003c:0020::0003		00-90-99-c1-b1-80	
vlan20 [4] stale	0 msec	yes	
3ffe:0b80:003c:0020::0002		00-90-99-0a-06-81	
vlan20 [6] stale	0 msec	yes	

IPv6 Address	ノードの IPv6 アドレス
Link-layer address	ノードのデータリンク層アドレス（MAC アドレス）
Interface	ノードが存在するインターフェース名。カッコ内はノードが存在するスイッチポートの番号（VLAN インターフェースの場合のみ）
State	エントリーの状態。incomplete、reachable、stale、delay、unreachable、probe、permanent のいずれか
LastReachable	該当ノードへの到達性確認の残り有効時間（ミリ秒）
IsRouter	該当ノードがルーター（パケットを転送するノード）であるかどうか

表 12:

関連コマンド

DISABLE IPV6 (61 ページ)

ENABLE IPV6 (66 ページ)

SHOW IPV6 NDCONFIG

カテゴリー：IPv6 / 近隣探索

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 NDCONFIG [INTERFACE=*vlan-if*]

vlan-if: VLAN インターフェース (VLAN-name か VLANvid の形式。name は VLAN 名、vid は VLAN ID) またはトンネルインターフェース (VIRTn)

解説

近隣要請 (NS)、ルーター通知 (RA) の設定パラメーターを表示する。

パラメーター

INTERFACE IPv6 インターフェース

入力・出力・画面例

```

Manager > show ipv6 ndconfig

Ipv6 Neighbour Discovery Information:
-----
Interface : vlan10
DupAddrDetectTransmits ..... 1
AdvSendAdvertisements ..... Yes
MaxRtrAdvInterval ..... 600 secs
MinRtrAdvInterval ..... 198 secs
AdvManagedFlag ..... False
AdvOtherConfigFlag ..... False
AdvLinkMTU ..... 0
AdvReachableTime ..... 0 msecs
AdvRetransTimer ..... 0 msecs
AdvCurHopLimit ..... 255
AdvDefaultLifetime ..... 1800 secs
AdvPrefixList                plen    valid/pref    A/O
-----
3ffe:0b80:003c:0010::        /64    2592000/604800  Yes/Yes
-----

Ipv6 Neighbour Discovery Information:
-----
Interface : vlan20
DupAddrDetectTransmits ..... 1
AdvSendAdvertisements ..... Yes

```

```

MaxRtrAdvInterval ..... 600 secs
MinRtrAdvInterval ..... 198 secs
AdvManagedFlag ..... False
AdvOtherConfigFlag ..... False
AdvLinkMTU ..... 0
AdvReachableTime ..... 0 msecs
AdvRetransTimer ..... 0 msecs
AdvCurHopLimit ..... 255
AdvDefaultLifetime ..... 1800 secs
AdvPrefixList                plen      valid/pref      A/O
-----
3ffe:0b80:003c:0020::        /64      2592000/604800    Yes/Yes
-----

```

Interface	IPv6 インターフェース
DupAddrDetectTransmits	仮アドレスに対する重複アドレス検出 (DAD) の実行回数
AdvSendAdvertisements	ルーター通知 (RA) を送信するかどうか
MaxRtrAdvInterval	定期的な RA の最大送信間隔 (秒)
MinRtrAdvInterval	定期的な RA の最小送信間隔 (秒)
AdvManagedFlag	RA の M フラグを立てるかどうか
AdvOtherConfigFlag	RA の O フラグを立てるかどうか
AdvLinkMTU	RA の MTU オプションで通知するリンク MTU
AdvReachableTime	RA の Reachable Time フィールドに設定する値 (ミリ秒)
AdvRetransTimer	RA の Retrans Time フィールドに設定する値 (ミリ秒)
AdvCurHopLimit	RA の Cur Hop Limit フィールドに設定する値
AdvDefaultLifetime	RA の Router Lifetime フィールドに設定する値 (秒)
AdvPrefixList	RA で通知するプレフィックスの一覧
plen	プレフィックス長
valid	最終有効時間 (秒)
pref	推奨有効時間 (秒)
A	プレフィックス情報オプションの A (Autonomous address-configuration) フラグを立てるかどうか
O	プレフィックス情報オプションの L (on-link) フラグを立てるかどうか

表 13:

関連コマンド

ADD IPV6 PREFIX (43 ページ)

SET IPV6 ND (78 ページ)

SET IPV6 PREFIX (80 ページ)

SHOW IPV6 RIP

カテゴリー：IPv6 / 経路制御 (RIPng)

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 RIP [COUNTER|TIMER]

解説

RIPng の情報を表示する。

パラメーター

COUNTER RIP カウンターを表示する。

TIMER RIP タイマーの設定値を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show ipv6 rip
```

Interface	Circuit	Poison	Ipv6 Address
vlan1		No	fe80::0200:cdff:fe08:170c
vlan10		No	fe80::0200:cdff:fe08:170c

```
Manager > show ipv6 rip counter
```

IPV6 RIPNG Counter Summary:

Input:

inResponses	22
inRequests	1
inDiscards	0

Output:

outResponses	47
outRequests	2

```
Manager > show ipv6 rip timer
```

RIPng route timers

Destination	Pln	int.	met.	Val	Hold	Flush
3ffe:0b80:003c:ffff::	64	1	2	153	0	273
3ffe:0b80:003c:0100::	64	3	2	156	0	276
3ffe:0b80:003c:0200::	64	3	2	156	0	276
3ffe:0b80:003c:0300::	64	3	2	156	0	276
3ffe:0b80:003c:0400::	64	3	2	156	0	276
3ffe:0b80:003c:0020::	64	2	2	154	0	274
3ffe:0b80:003c:0030::	64	2	3	154	0	274

Interface	RIPng が有効な IPv6 インターフェース
Circuit	未使用
Poison	ポイズンリバースの有効・無効
IPv6 Address	上記インターフェースの IPv6 アドレス

表 14: オプション無指定時

inResponses	RIPng 応答パケット受信数
inRequests	RIPng 要求パケット受信数
inDiscards	RIPng パケット破棄数
outResponses	RIPng パケット送信数
outRequests	RIPng 要求パケット送信数

表 15: COUNTER オプション

Destination	宛先ネットワークのプレフィックス
Pln	プレフィックス長
int.	インターフェース
met.	メトリック
Val	経路の有効期間
Hold	ホールドダウンタイム (秒)。経路が無効になったあとの待機時間。この間に経路更新のメッセージを受け取っても無視する
Flush	ルートタイムアウト (秒)。最後の経路更新メッセージ受信から経路を削除するまでの時間

表 16: TIMER オプション

関連コマンド

ADD IPV6 RIP (45 ページ)

DELETE IPV6 RIP (57 ページ)

DISABLE IPV6 RIP (65 ページ)

ENABLE IPV6 RIP (71 ページ)

SHOW IPV6 (81 ページ)

SHOW IPV6 ROUTE

カテゴリー：IPv6 / 経路制御

備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 ROUTE [FULL]

解説

IPv6 のルーティングテーブルを表示する。

パラメーター

FULL 最適でない経路も含め、すべての経路を表示させたいときに指定する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show ipv6 route
IPV6 Routing Table Entries

Destination prefix    --->    Next Hop
Int.   Age   Policy Protocol      Metric  Pref Tunnel  DLCI  Flags
-----
::/0 ---> 3ffe:0b80:003c:0020::0002
vlan20 no    0      static          1       360  no    -
3ffe:0b80:003c:ffff::/64 ---> 3ffe:0b80:003c:0010:0200:f4ff:fec4:0463
vlan10 no    0      static          1       60   no    -
3ffe:0b80:003c:0010::/64 ---> ::
vlan10 no    0      interface       1       0    no    -    P
3ffe:0b80:003c:0020::/64 ---> ::
vlan20 no    0      interface       1       0    no    -    P
3ffe:0b80:003c:0030::/64 ---> 3ffe:0b80:003c:0020::0002
vlan20 no    0      static          1       60   no    -
3ffe:0b80:003c:0040::/64 ---> 3ffe:0b80:003c:0020::0002
vlan20 no    0      static          1       60   no    -
3ffe:0b80:003c:0050::/64 ---> 3ffe:0b80:003c:0020::0003
vlan20 no    0      static          1       60   no    -
-----
Codes: P=publish, D=default, A=addrconf, S=stale, L=onlink
N=nonexthop, C=cache, F=flow, Y=policy, U=unknown

```

Destination prefix	宛先ネットワークのプレフィックス
--------------------	------------------

Next Hop	ネクストホップアドレス
----------	-------------

Int.	送信インターフェース。名前の後の「#」は、該当インターフェースがリンクダウンしていることを示す
Age	該当経路がエージングの対象かどうか
Policy	現在未使用
Protocol	経路の学習元。ripng (RIPng) static (スタティック経路) interface (インターフェース経路) がある
Metric	RIPng におけるメトリック
Pref	経路の優先度
Tunnel	送信インターフェースがトンネルインターフェースかどうか
DLCI	現在未使用
Flags	フラグ

表 17:

SHOW IPV6 TUNNEL

カテゴリー：IPv6 / IPv6 インターフェース
備考：フィーチャーライセンス AT-FL-13 または AT-FL-13-B が必要

SHOW IPV6 TUNNEL

解説

トンネルインターフェースの情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show ipv6 tunnel

Ipv6 Tunnels:

Interface    Ipv6 Tunnel Address
  Tunnel start          Tunnel end
-----
virt0        fe80::c0a8:6401
  192.168.100.1        192.168.100.2
-----
```

Interface	トンネルインターフェース名
IPv6 Tunnel Address	トンネルインターフェースの IPv6 アドレス
Tunnel start	IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースの場合は、自エンド側 IPv4 アドレスが表示される。6to4 トンネルインターフェースの場合は、6-to-4 interface と表示される
Tunnel end	IPv6 over IPv4 トンネルインターフェースの場合は、対向側 IPv4 アドレスが表示される。6to4 トンネルインターフェースの場合は、何も表示されない

表 18:

関連コマンド

ADD IPV6 ROUTE (46 ページ)
SHOW IPV6 INTERFACE (89 ページ)